

第6章 保育園・幼稚園による保護者の子育ての不安や悩みの把握と対応

本章では、保育園または幼稚園による保護者の育児不安や子育ての把握状況とサポートの実態について分析を行う。

1. 担任の保育者と話をする機会

保護者が担任の保育者と話をする機会は、保育園の送り迎えの状況に大きく左右されることが予測される。そこで、問2の「b.保育園・幼稚園へ迎えに行く（バス停まで含）」の回答者に限定して分析を行った。

まず、保護者が保育園・幼稚園に迎えに行く頻度は、保育園・幼稚園別でみると、「週4日以上」の割合は幼稚園（52.1%）と公立保育園（50.7%）では約半数で、私立保育園（44.6%）でやや低い（図表6-1）。さらに父母別にみると、母親では、「週4日以上」は幼稚園では95.1%であるのに対し、公立保育園（80.7%）と私立保育園（73.8%）でやや低くなっている。父親では、「ほとんどなし」と答えた割合が、幼稚園（72.9%）で最も高く、次いで私立保育園（61.7%）、公立保育園（50.9%）となっている。

次に、「保育園・幼稚園へ迎えに行く（バス停まで含）」回数別に、担任と話をする頻度をみると、送迎の頻度が「週4日以上」では、担任の保育者と話をする機会は、「週に4日以上」（28.8%）、「週2、3日」では、「週に2、3日程度」（31.3%）で最も回答が多くなっていることから、送り迎えの日数に応じて、保育者と話す機会を毎回持っている様子が見えてくる（図表6-2）。送迎の頻度が「週1日」では、「週に1日程度」（26.1%）も見られる一方、「ほとんどない」（40.2%）が大半を占めている。「週1日」程度の迎えの場合は、担任の保育者と話す機会は少ない。保育園の迎えの回数が多い父母ほど、担任の保育者との会話の頻度は高く、迎えに行く回数が少ない場合ほど、会話の頻度は少なくなっている。

図表6-1 保護者が保育園・幼稚園に迎えに行く頻度（バス停まで含）（%）

		家事・育児:保育園・幼稚園へ迎えに行く（バス停まで含）					
		n	週4日以上	週2、3日	週1日	月1、2日	ほとんどなし
全体	全体	5,990	50.8	4.0	3.3	10.1	31.8
	私立保育園	891	44.6	10.1	5.8	9.7	29.9
	公立保育園	845	50.7	8.8	5.4	12.1	23.1
	幼稚園	4,254	52.1	1.8	2.4	9.8	33.9
母親	全体	3,288	89.6	4.5	1.6	1.9	2.4
	私立保育園	504	73.8	12.1	4.0	4.6	5.6
	公立保育園	498	80.7	8.2	2.6	3.8	4.6
	幼稚園	2,286	95.1	2.0	0.8	0.9	1.2
父親	全体	2,635	2.4	3.4	5.4	20.3	68.6
	私立保育園	379	6.3	7.4	8.2	16.4	61.7
	公立保育園	330	5.8	9.7	9.4	24.2	50.9
	幼稚園	1,926	1.0	1.5	4.2	20.4	72.9

図表6-2 担任の保育者と話をする機会
(保育園・幼稚園に迎えに行く頻度(バス停まで含)別)(%)

		担任の保育士と会話する頻度					
		n	週4日以上	週2、3日	週1日	月1、2日	ほとんどなし
全体	全体	5,969	15.7	13.9	11.4	17.4	41.6
	週4日以上	3,031	28.8	23.6	17.2	23.0	7.3
	週2、3日	238	9.2	31.1	22.3	19.3	18.1
	週1日	199	6.0	4.0	26.1	23.6	40.2
	月1、2日	602	1.2	1.5	4.7	24.3	68.4
	ほとんどなし	1,899	1.2	1.3	1.3	5.4	90.8
母親	全体	3,278	26.6	23.6	17.9	23.9	8.0
	週4日以上	2,939	28.6	23.5	17.4	23.5	7.0
	週2、3日	147	12.9	40.1	19.7	18.4	8.8
	週1日	52	11.5	13.5	44.2	23.1	7.7
	月1、2日	61	3.3	11.5	24.6	49.2	11.5
	ほとんどなし	79	6.3	13.9	10.1	29.1	40.5
父親	全体	2,627	2.0	1.8	3.3	9.3	83.5
	週4日以上	62	35.5	29.0	9.7	3.2	22.6
	週2、3日	88	2.3	17.0	27.3	20.5	33.0
	週1日	143	4.2	0.7	20.3	24.5	50.3
	月1、2日	532	0.9	0.4	2.3	21.2	75.2
	ほとんどなし	1,802	0.9	0.7	0.9	4.3	93.2

注:それぞれもっとも回答割合が高かった項目を太字で表示

さらに、父母別に迎えに行く回数別にみると、母親の場合は、迎えに行く回数が「ほとんどない」場合を除いて、担任の保育者との会話がみられる。迎えに行く回数が、「週4日以上」では、担任と話をする頻度は「週4日以上」が28.8%、同様に迎えに行く回数が「週2、3日」では頻度は「週2、3日」が31.1%で最も多く、迎えに行く日はほぼ毎日担当の保育者と話す母親が最も割合として多くなっている。同様に、父親の場合には、「週4日以上」迎えに行く場合は「週に4日以上」が35.5%と非常に高い。しかし、迎えに行く回数が「週2、3日」では頻度は「週1日」が27.3%で最も多く、迎えに行く回数が「週1日」以下では、会話の頻度が「ほとんどない」で最も回答が多くなっている。このように、迎えの頻度が同じである場合は父親よりも母親で、担任の保育者と話をする機会は多くなっている。

2. 保育園・幼稚園による保護者への対応

(1) 父母別

保護者に対する担任の保育者の保護者や園児への対応について、「担任の先生は、あなたの子どもをよく理解してくれている」から「担任の先生がいないときには、他の先生に引継ぎをしてくれているので不安はない」までの11項目についてたずねた。「当てはまる」から「ほとんど当てはまらない」、または「わからない」で回答を得た。

まず、父母別に、担任の保育者の保護者や園児への対応をみてみたい。

母親で、当てはまる(「当てはまる」と「まあ当てはまる」の合計)と答えた割合が高かったのは、「担任の先生は、あなたの子どもをよく理解してくれている」(92.1%)、「子どもへの対応は丁寧で、子どもの話をよく聞いてくれる」(90.9%)、「担任の先生はあなたの話をよく聞いてくれる(コミュニケーションがよくとれている)」(89.8%)であった(図表6-3-1)。また、「担

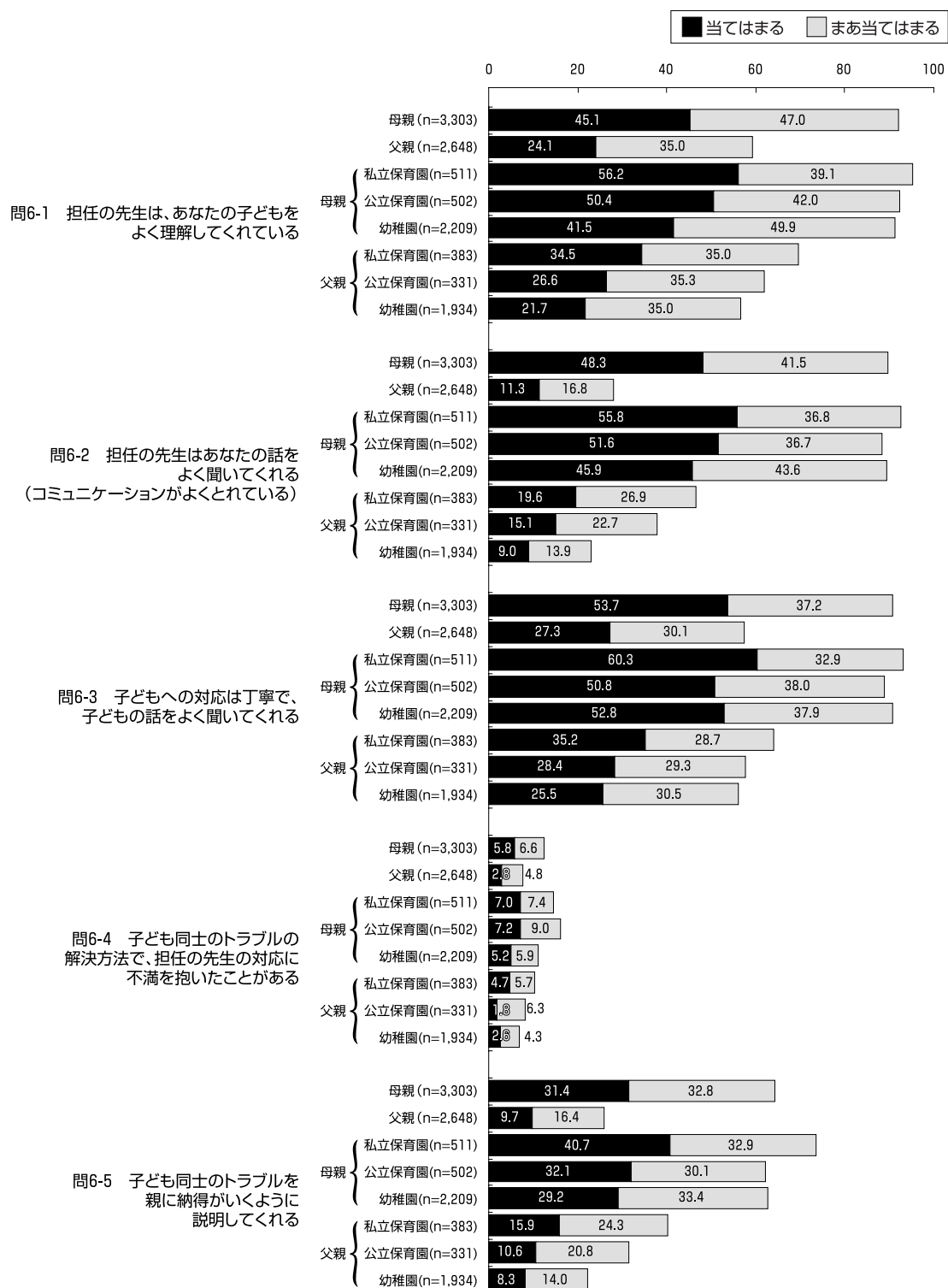
任の先生と親と一緒に子どもを育てているという一体感がある」(76.4%)や「担任の先生がいないときには、他の先生に引き継ぎをしてくれているので不安はない」(74.7%)、「登降園時に担任の先生と直接、子どもの様子について情報交換する機会がある」(71.6%)も7割以上の回答となった。「子ども同士のトラブルを親に納得がいくように説明してくれる」(62.2%)、「担任の先生はあなたの家庭の状況をよく理解してくれている」(59.2%)、「子どもの育て方や対応で迷ったときには、担任の先生に相談する」(56.9%)の回答も約6割みられた。

一方、父親では、全般的に当てはまると答えた割合は低く、「わからない」と答えた割合が母親に比べて高い。図表6-1でみられたように、父親が保育園・幼稚園に迎えに行く回数はほとんどない割合が約7割と高いことが理由と考えられる。こうした状況ではあるが、父親で当てはまると答えた割合が高かったのは、母親と同様に、「担任の先生は、あなたの子どもをよく理解してくれている」(59.1%)、「子どもへの対応は丁寧で、子どもの話をよく聞いてくれる」(57.4%)で、次いで「担任の先生と親と一緒に子どもを育てているという一体感がある」(42.6%)も回答が多かった。

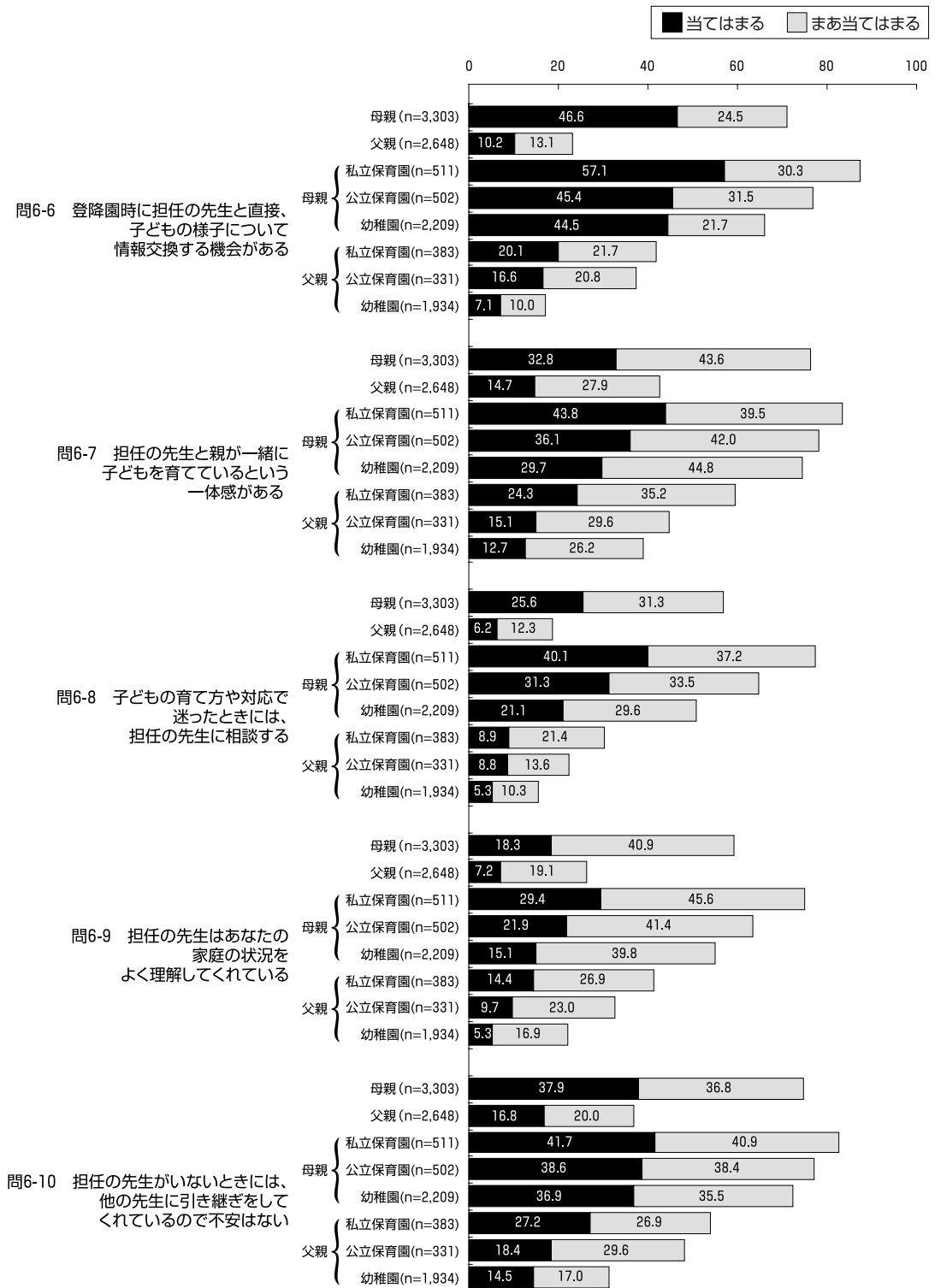
(2) 保育園・幼稚園別

次に、担任の保育者の保護者や園児への対応について保護者(母親)にたずねた結果を、保育園・幼稚園別にみると、多くの項目で、私立保育園、公立保育園、幼稚園の順に当てはまると答えた割合が高い。例えば、「登降園時に担任の先生と直接、子どもの様子について情報交換する機会がある」は、私立保育園の87.4%に対し、公立保育園では76.9%、幼稚園では66.2%と差がみられる(図表6-3-2)。同様に、「子どもの育て方や対応で迷ったときには、担任の先生に相談する」では、私立保育園(77.3%)、公立保育園(67.8%)、幼稚園(50.7%)、「担任の先生は、あなたの子どもをよく理解してくれている」では、それぞれ順に75.0%、63.3%、54.9%となっている。全般的に、私立保育園で保護者(母親)の担任の保育者から対応が得られていると答えている。

図表6-3-1 担任の保育者の保護者や園児への対応(父母／保育園・幼稚園別)



図表6-3-2 担任の保育者の保護者や園児への対応（父母／保育園・幼稚園別）



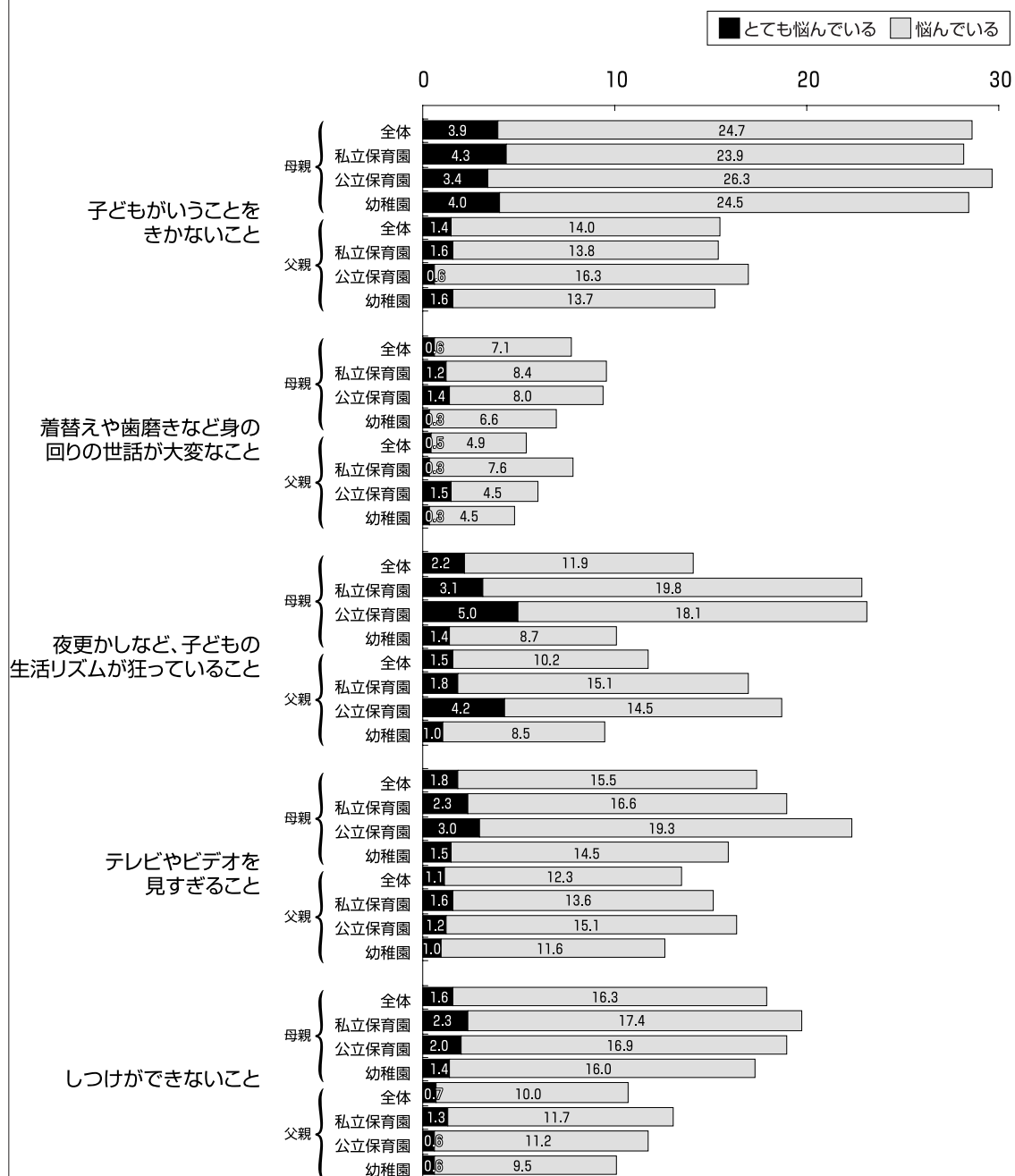
3. 保育園・幼稚園による保護者の子育ての悩みの把握状況

(1) 保護者の子育ての悩み

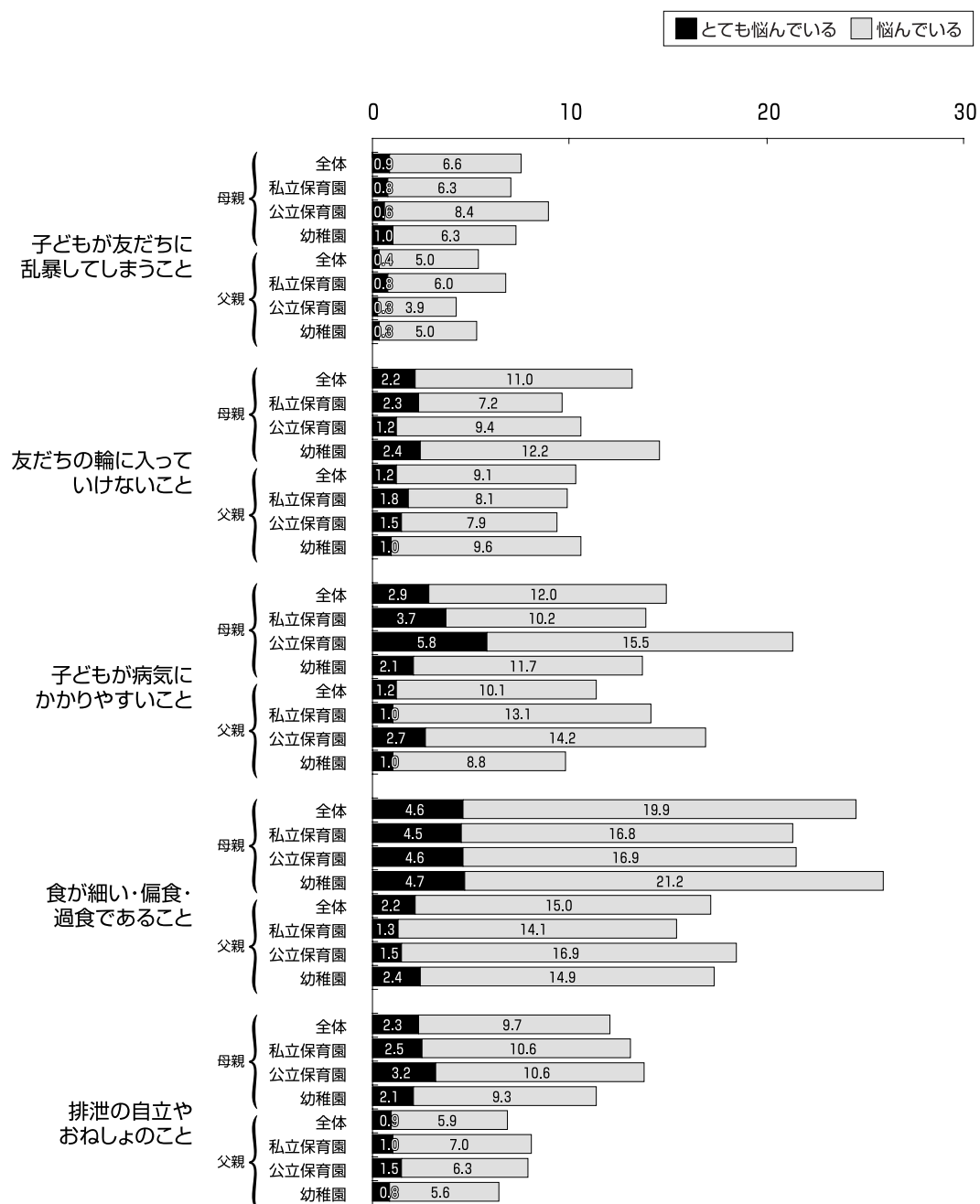
保護者の子育ての悩みについて、14項目の内容について、悩んでいる保護者がどの程度いるのかみてみたい。まず、母親で悩んでいる（「とても悩んでいる」と「悩んでいる」の合計）の割合が高かったのは、「子どもの叱り方のこと（叱りすぎを含む）」で、母親では全体で44.9%、次いで「子どもがいうことをきかないこと」（28.6%）、「食が細い・偏食・過食であること」（25.5%）の順となっている（図表6-4-1、6-4-2、6-4-3）。保育園・幼稚園別では、「子どもの叱り方のこと（叱りすぎを含む）」と「子どもがいうことをきかないこと」の両方で幼稚園の母親（それぞれ46.4%、25.9%）で最も高くなっている。その他に差がみられたのは、「夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること」では幼稚園で10.1%と低いが、私立保育園（22.9%）と公立保育園（23.1%）で高くなっている。また、公立保育園では、「テレビやビデオを見すぎる」（22.3%）や「子どもが病気にかかりやすいこと」（21.6%）、「子どもの教育のこと」（19.1%）でも悩んでいる割合が比較的高い。

父親では、母親に比べていずれも回答率が低い（図表6-4-1、6-4-2、6-4-3）。「子どもがいうことをきかないこと」は、父親で15.4%と、母親の全体に比べて13.2ポイント低い。一方、「夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること」は、幼稚園の母親（10.1%）よりも、私立保育園または公立保育園の父親でそれぞれ16.9%、18.2%と高い。「子どもが病気にかかりやすいこと」は、公立保育園の父親（16.9%）で私立保育園や幼稚園の母親（それぞれ13.9%、13.8%）と回答率がやや高く、母親の場合と同様の傾向にある。

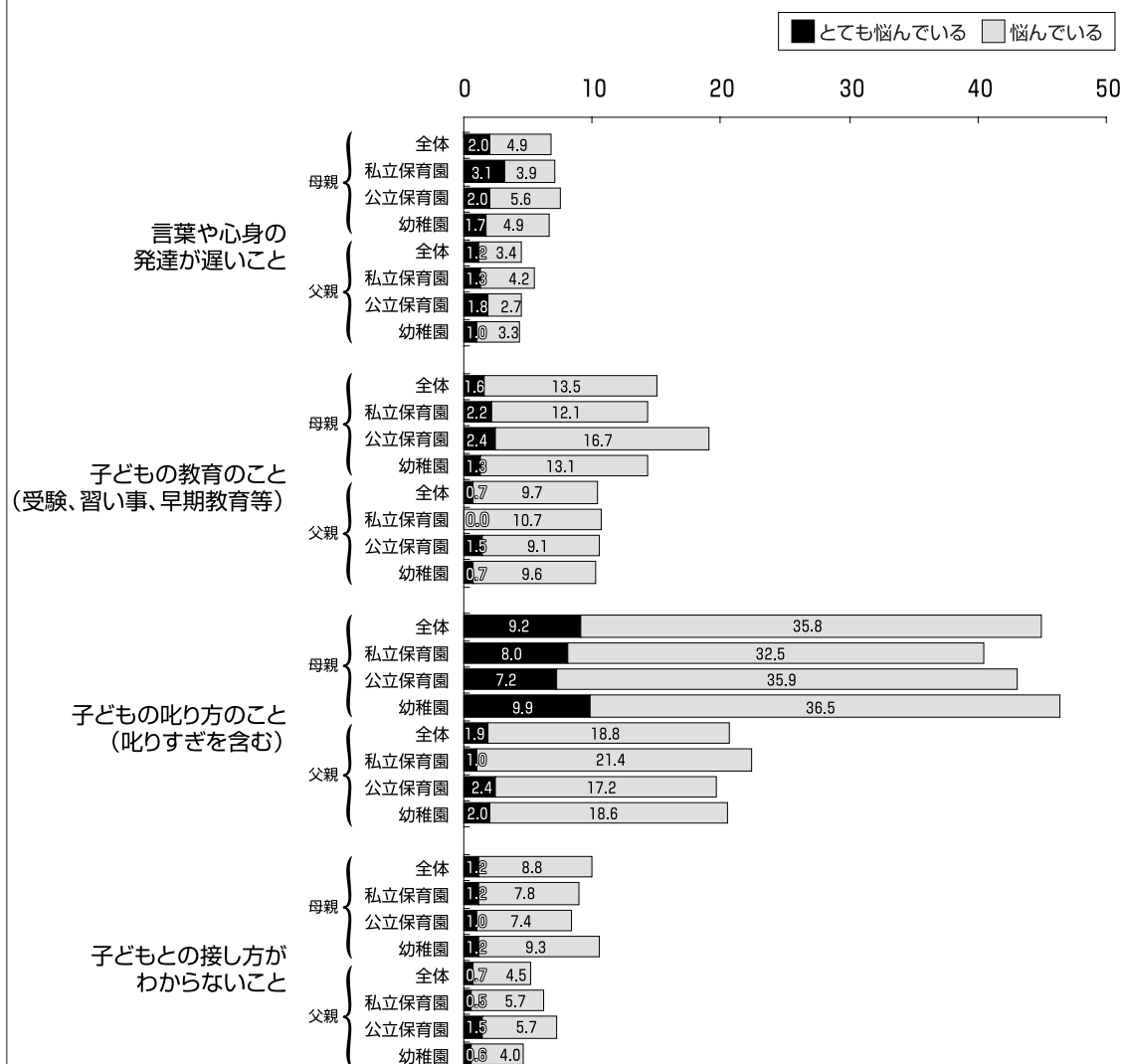
図表6-4-1 保護者の子育ての悩みや不安（「とても悩んでいる」と「悩んでいる」の割合）



図表6-4-2 保護者の子育ての悩みや不安（「とても悩んでいる」と「悩んでいる」の割合）



図表6-4-3 保護者の子育ての悩みや不安（「とても悩んでいる」と「悩んでいる」の割合）



(2) 保育者による保護者の子育ての悩みの把握

次に、保育者が育児不安を持っている保護者がどのくらいの割合でいると思っているのか、そしてその割合と実際の不安を抱えている保護者の割合との間のギャップはあるのかをみてみたい。保護者に対する設問と同様に、14項目の内容について、悩んでいる保護者が担任しているクラスにどれくらいいるのか、保育者にその割合を回答してもらった。

全体では、いずれの項目でも「8割以上」と答えた割合は低く、最も高いもので、「子どもがいうことをきかない」(5.8%)となっている(図表6-5)。「6割程度」と「8割以上」を加えた割合でみると、「子どもがいうことをきかない」(28.3%)が最も多く、次いで「食が細い・偏食・過食であること」(19.0%)、「しつけができないこと」(17.0%)の順となっている。

これを保育園・幼稚園別にみると、いくつかの項目で差がみられる。まず、「夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること」について、「6割程度」と「8割以上」を加えた割合は、公立保育園(24.8%)と私立保育園(20.0%)で2割以上であるのに対し、幼稚園では4.7%と低い。「子どもがいうことをきかないこと」も、私立保育園(33.3%)と公立保育園(31.0%)で、幼稚園(22.5%)よりやや高くなっている。逆の結果もみられる。「友だちの輪に入っていけないこと」「食が細い・偏食・過食であること」「子どもが友だちに乱暴してしまうこと」について、幼稚園で私立・公立保育園に比べて約10ポイント以上高い。

次に、保育者の保護者の育児不安の把握の認識について、経験年数別でみてみたい。図表6-6の右端の換算割合は、保育園および幼稚園の保育者が保護者のうち悩んでいると思うと答えた割合である「2割以下」「4割程度」「6割程度」「8割以上」の4択の回答を、それぞれ20%、40%、60%、80%に置換して割合を算出し、平均値を算出したものである。

その結果、「子どもがいうことをきかないこと」「夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること」「しつけができないこと」「子どもとの接し方がわからないこと」の多くの項目で経験年数が「20年以上」の保育者で、その他の経験年数の保育者に比べて5ポイント以上の差をつけて最も換算値が高くなっている。逆に、「子どもが友だちに乱暴してしまうこと」「友だちの輪に入っていけないこと」では、経験年数が「0年～3年」と短い保育者で、その他の経験年数の保育者に比べて高い傾向がみられる。

ただし、保育園と幼稚園で保育者の経験年数の割合は、公立保育園で「20年以上」の保育者の割合は27.9%を占め、経験年数が長い保育者の割合が高く、幼稚園では「0年～3年」の経験年数が短い保育者の割合が47.1%と高くなっている(図表6-7)。このことから、図表6-6でみた保育園・幼稚園の保育者の保護者の育児不安の認識の差は、保育園と幼稚園の保育者の経験年数の違いも影響していると考えられる必要があるだろう。

図表6-5 担当しているクラスで、悩んだり、不安に思っている保護者の割合

		n	2割以下	4割程度	6割程度 (A)	8割以上 (B)	6割以上+ 8割以上 (A+B)	最高値- 最低値
子どもがいうことをきかないこと	全体	434	37.6	34.1	22.6	5.8	28.3	10.8
	私立保育園	135	36.3	30.4	25.9	7.4	33.3	
	公立保育園	126	37.3	31.7	23.8	7.1	31.0	
	幼稚園	173	38.7	38.7	19.1	3.5	22.5	
着替えや歯磨きなど身の回りの世話が大変なこと	全体	430	58.1	28.8	10.2	2.8	13.0	4.5
	私立保育園	134	58.2	26.9	11.2	3.7	14.9	
	公立保育園	125	55.2	34.4	7.2	3.2	10.4	
	幼稚園	171	60.2	26.3	11.7	1.8	13.5	
夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること	全体	434	52.3	32.3	10.4	5.1	15.4	20.1
	私立保育園	135	40.7	39.3	11.9	8.1	20.0	
	公立保育園	129	45.0	30.2	17.1	7.8	24.8	
	幼稚園	170	67.1	26.2	4.1	0.6	4.7	
テレビやビデオを見すぎる	全体	428	59.1	26.2	11.7	3.0	14.7	5.6
	私立保育園	133	62.4	24.8	9.8	3.0	12.8	
	公立保育園	125	58.4	23.2	13.6	4.8	18.4	
	幼稚園	170	57.1	29.4	11.8	1.8	13.5	
しつけができないこと	全体	430	48.1	34.2	14.4	3.3	17.7	4.1
	私立保育園	135	54.1	28.1	13.3	4.4	17.8	
	公立保育園	125	44.0	36.0	17.6	2.4	20.0	
	幼稚園	170	46.5	37.6	12.9	2.9	15.9	
子どもが友だちに乱暴してしまうこと	全体	435	48.3	34.5	13.8	3.4	17.2	10.2
	私立保育園	135	51.1	34.1	14.1	0.7	14.8	
	公立保育園	128	52.3	35.2	10.9	1.6	12.5	
	幼稚園	172	43.0	34.3	15.7	7.0	22.7	
友だちの輪に入っていけないこと	全体	432	65.3	24.5	8.6	1.6	10.2	17.4
	私立保育園	134	79.1	17.9	3.0	0.0	3.0	
	公立保育園	126	73.0	23.0	3.2	0.8	4.0	
	幼稚園	172	48.8	30.8	16.9	3.5	20.3	
子どもが病気にかかりやすいこと	全体	432	63.9	25.0	5.8	5.3	11.1	6.9
	私立保育園	133	60.2	24.8	9.0	6.0	15.0	
	公立保育園	127	63.0	26.0	3.9	7.1	11.0	
	幼稚園	172	67.4	24.4	4.7	3.5	8.1	
食が細い・偏食・過食であること	全体	431	48.5	32.5	14.4	4.6	19.0	17.1
	私立保育園	134	52.2	35.1	9.7	3.0	12.7	
	公立保育園	125	53.6	34.4	8.8	3.2	12.0	
	幼稚園	172	41.9	29.1	22.1	7.0	29.1	
排泄の自立やおねしょのこと	全体	432	63.9	25.9	8.1	2.1	10.2	3.7
	私立保育園	134	64.9	25.4	8.2	1.5	9.7	
	公立保育園	127	66.1	20.5	9.4	3.9	13.4	
	幼稚園	171	61.4	30.4	7.0	1.2	8.2	
言葉や心身の発達が遅いこと	全体	430	77.0	18.8	3.5	0.7	4.2	1.7
	私立保育園	134	78.4	18.7	3.0	0.0	3.0	
	公立保育園	127	77.2	18.1	3.9	0.8	4.7	
	幼稚園	169	75.7	19.5	3.6	1.2	4.7	
子どもの教育のこと (受験、習い事、早期教育等)	全体	429	76.9	14.9	6.1	2.1	8.2	10.5
	私立保育園	133	87.2	10.5	1.5	0.8	2.3	
	公立保育園	124	75.8	16.1	6.5	1.6	8.1	
	幼稚園	172	69.8	17.4	9.3	3.5	12.8	
子どもの叱り方のこと(叱りすぎを含む)	全体	434	53.0	29.7	13.4	3.9	17.3	10.3
	私立保育園	135	60.0	23.7	10.4	5.9	16.3	
	公立保育園	127	56.7	31.5	10.2	1.6	11.8	
	幼稚園	172	44.8	33.1	18.0	4.1	22.1	
子どもとの接し方がわからないこと	全体	431	61.9	27.8	8.4	1.9	10.2	6.3
	私立保育園	134	56.7	32.1	9.7	1.5	11.2	
	公立保育園	127	59.1	27.6	10.2	3.1	13.4	
	幼稚園	170	68.2	24.7	5.9	1.2	7.1	

図表6-6 担当しているクラスで、悩んだり、不安に思っている保護者の割合
(保育者の経験年数別)

	経験年数	n	2割以下	4割程度	6割程度 (A)	8割以上 (B)	換算割合
子どもがいうことをきかないこと	0年～3年	136	36.8	41.9	18.4	2.9	37.5
	3年～9年	128	40.6	28.1	24.2	7.0	39.5
	10年～19年	107	38.3	33.6	24.3	3.7	38.7
	20年以上	46	32.6	23.9	32.6	10.9	44.3
着替えや歯磨きなど身の回りの世話が大変なこと	0年～3年	133	60.2	24.8	15.0	0.0	31.0
	3年～9年	128	62.5	23.4	9.4	4.7	31.3
	10年～19年	107	55.1	33.6	5.6	5.6	32.3
	20年以上	45	51.1	37.8	11.1	0.0	32.0
夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること	0年～3年	133	60.9	33.8	5.3	0.0	28.9
	3年～9年	129	48.1	32.6	9.3	10.1	36.3
	10年～19年	108	49.1	31.5	13.0	6.5	35.4
	20年以上	46	39.1	34.8	21.7	4.3	38.3
テレビやビデオを見すぎること	0年～3年	134	59.0	31.3	9.7	0.0	30.1
	3年～9年	128	55.5	25.0	14.1	5.5	33.9
	10年～19年	106	62.3	23.6	9.4	4.7	31.3
	20年以上	43	58.1	23.3	18.6	0.0	32.1
しつけができないこと	0年～3年	134	48.5	41.8	8.2	1.5	32.5
	3年～9年	129	52.7	26.4	17.1	3.9	34.4
	10年～19年	106	44.3	36.8	13.2	5.7	36.0
	20年以上	46	34.8	32.6	30.4	2.2	40.0
子どもが友だちに乱暴してしまうこと	0年～3年	135	38.5	40.0	17.8	3.7	37.3
	3年～9年	129	44.2	37.2	13.2	5.4	36.0
	10年～19年	109	60.6	25.7	11.9	1.8	31.0
	20年以上	45	57.8	31.1	8.9	2.2	31.1
友だちの輪に入っていけないこと	0年～3年	135	57.8	28.9	9.6	3.7	31.9
	3年～9年	129	63.6	22.5	13.2	0.8	30.2
	10年～19年	106	75.5	20.8	3.8	0.0	25.7
	20年以上	45	66.7	28.9	2.2	2.2	28.0
子どもが病気にかかりやすいこと	0年～3年	135	57.0	30.4	7.4	5.2	32.1
	3年～9年	128	64.8	22.7	5.5	7.0	30.9
	10年～19年	107	70.1	23.4	3.7	2.8	27.9
	20年以上	44	63.6	22.7	6.8	6.8	31.4
食が細い・偏食・過食であること	0年～3年	133	46.6	32.3	15.0	6.0	36.1
	3年～9年	129	49.6	28.7	17.8	3.9	35.2
	10年～19年	107	50.5	32.7	12.1	4.7	34.2
	20年以上	45	42.2	42.2	13.3	2.2	35.1
排泄の自立やおねしょのこと	0年～3年	133	60.2	30.8	8.3	0.8	29.9
	3年～9年	129	67.4	22.5	5.4	4.7	29.5
	10年～19年	107	66.4	24.3	8.4	0.9	28.8
	20年以上	45	62.2	22.2	13.3	2.2	31.1
言葉や心身の発達が遅いこと	0年～3年	135	72.6	23.7	3.0	0.7	26.4
	3年～9年	127	76.4	16.5	6.3	0.8	26.3
	10年～19年	106	82.1	15.1	2.8	0.0	24.2
	20年以上	45	80.0	17.8	0.0	2.2	24.9
子どもの教育のこと(受験、習い事、早期教育等)	0年～3年	135	75.6	17.0	4.4	3.0	27.0
	3年～9年	129	80.6	10.9	6.2	2.3	26.0
	10年～19年	106	77.4	16.0	6.6	0.0	25.8
	20年以上	42	71.4	16.7	7.1	4.8	29.0
子どもの叱り方のこと(叱りすぎを含む)	0年～3年	135	56.3	27.4	13.3	3.0	32.6
	3年～9年	129	48.8	34.1	13.2	3.9	34.4
	10年～19年	107	55.1	29.0	10.3	5.6	33.3
	20年以上	46	52.2	21.7	21.7	4.3	35.7
子どもとの接し方がわからないこと	0年～3年	134	67.9	23.9	6.7	1.5	28.4
	3年～9年	129	60.5	32.6	6.2	0.8	29.5
	10年～19年	106	65.1	24.5	8.5	1.9	29.4
	20年以上	45	42.2	31.1	20.0	6.7	38.2

図表6-7 保育者の経験年数(保育園・幼稚園別)(%)

	n	0年～3年	3年～9年	10年～19年	20年以上
全体	473	30.7	29.0	26.6	13.7
私立保育園	144	26.4	31.3	31.3	11.1
公立保育園	140	12.9	28.6	30.7	27.9
幼稚園	189	47.1	27.5	20.1	5.3

(3) 保護者の悩んでいる割合と保育者が思う悩んでいる親の割合

ここで、第5章でみてきた保護者のうち子育てについて悩んでいる（「とても悩んでいる」または「悩んでいる」と答えた割合の合計）と答えた割合と、保育園および幼稚園の保育者が保護者のうち悩んでいると思うと答えた割合（「2割以下」「4割程度」「6割程度」「8割以上」の4択で回答を得たが、それぞれ20%、40%、60%、80%に置換して割合を算出した）の両者の関係をみてみたい。

まず、図表6-8の全体（母親と父親、その他の合計）でみてみたい。「子どもの叱り方のこと（叱りすぎを含む）」以外の項目では、保育者が想定する悩んでいると思われる親の割合の方が、実際に保護者のうち悩んでいると答えた割合よりも高くなっている。特に、「子どもが友だちに乱暴をしてしまうこと」について、保育者では親の34.5%が悩んでいると回答したのに対し、保護者では6.6%のみが悩んでいると答えており、両者間のギャップは27.9ポイントと大きい。「着替えや歯磨きなど身の回りの世話が大変なこと」でも、保育者の31.5%に対し、保護者では6.8%で、保護者のほうで悩んでいる割合は、保育者が思っている割合よりも24.7ポイントも低い。保育者が思っているほど、保護者は子どもの友だちへの乱暴について悩んでいる親の割合は少ないようだ。

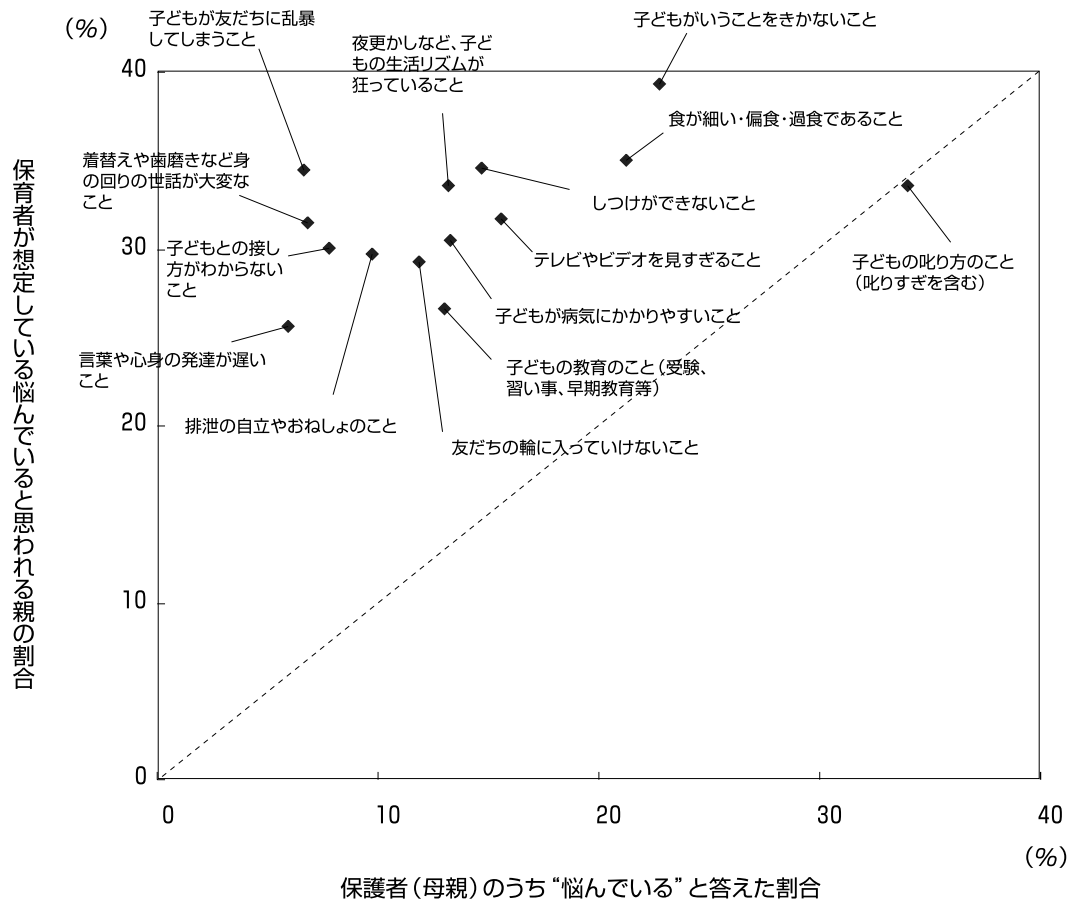
以上から、大半の子育ての悩みについては、実際に保護者が悩んでいると思っている割合以上に保育者で保護者は悩んでいる割合が多いと感じている。このことは、保育者の方で、保護者の悩みごとを不安に思っているだろうと気にかける傾向が高いということであると思われる。

一方、「子どもの叱り方のこと（叱りすぎを含む）」は、保育者では担当しているクラスの園児の保護者のうち33.6%が悩んでいると回答したのに対し、実際の保護者のうち悩んでいると答えた割合は34.0%で、保育者が思う割合と実際に悩んでいる親の割合の方がほぼ同率となっている。

次に、保護者を母親に限定し、保育者が保護者が悩んでいると思う割合と保護者（母親）の悩んでいる実際の割合の関係をみてみたい。全体と同様に、「子どもの叱り方のこと（叱りすぎを含む）」以外の項目は、すべて保育者の思う割合が、保護者の不安と思っている割合よりも高い。結果は、全体の結果とほぼ同様で、「子どもが友だちに乱暴してしまうこと」や「着替えや歯磨きなど身の回りの世話が大変なこと」で両者間のギャップが大きくみられる（図表6-9）。一方、「子どもの叱り方のこと（叱りすぎを含む）」では、母親の44.9%が悩んでいると答えたのに対し、保育者では33.6%の親が悩んでいると答えており、11.3ポイントの差がみられる。保育者が思う以上の割合の母親で悩んでいるようだ。

最後に、同様に保護者のうち父親と、保育者が想定する割合の関係をみてみたい。図表6-10に示したように、すべての項目で保育者が想定している割合と父親の悩んでいる割合を上回っている。母親と比べて、父親では相対的に悩んだり、不安に思っている割合は低く、母親（図表6-9）以上に保育者の想定する割合が高いという結果となった。ただし、保育者は、担当しているクラスの保護者のうちどのくらいの割合が悩んでいるか回答している。そのため、保育園・幼稚園への見送りの頻度が母親に比べて非常に少なく、接触が少ない父親は、保育者が想定する保護者にどの程度占めているのかは不明であるため、参考値としたい。

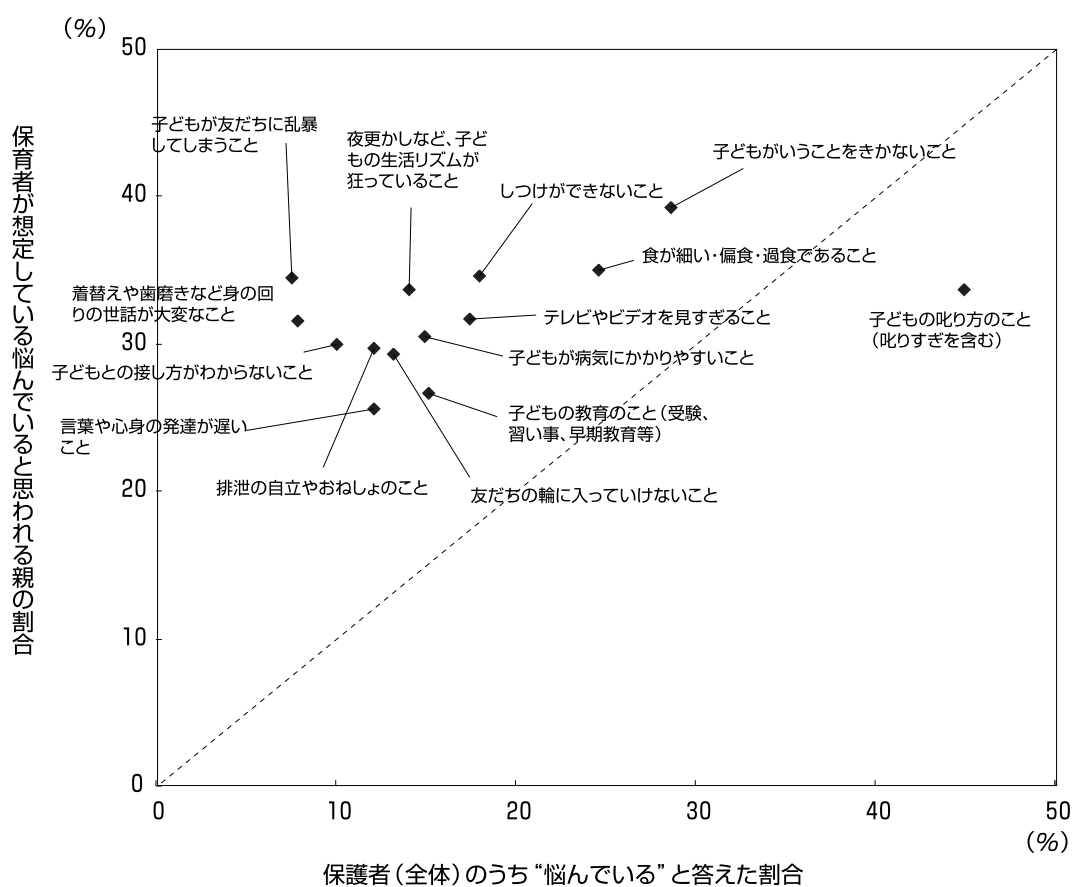
図表6-8 悩んだり、不安に思っている保護者（全体）の割合と保育者が想定している悩んでいると思われる親の割合



（詳しいデータ）

	保育者 (%)	保護者 (%)	保育者と保護者の差 (ポイント)
子どもがいうことをきかないこと	39.3	22.7	16.6
着替えや歯磨きなど身の回りの世話が大変なこと	31.5	6.8	24.7
夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること	33.6	13.2	20.4
テレビやビデオを見すぎる	31.7	15.6	16.1
しつけができないこと	34.6	14.7	19.9
子どもが友だちに乱暴してしまうこと	34.5	6.6	27.9
友だちの輪に入っていくことができないこと	29.3	11.9	17.4
子どもが病気にかかりやすいこと	30.5	13.3	17.2
食が細い・偏食・過食であること	35.0	21.2	13.8
排泄の自立やおねしょのこと	29.7	9.7	20.0
言葉や心身の発達が遅いこと	25.6	5.9	19.7
子どもの教育のこと（受験、習い事、早期教育等）	26.7	13.0	13.7
子どもの叱り方のこと（叱りすぎを含む）	33.6	34.0	-0.4
子どもとの接し方がわからないこと	30.0	7.8	22.2

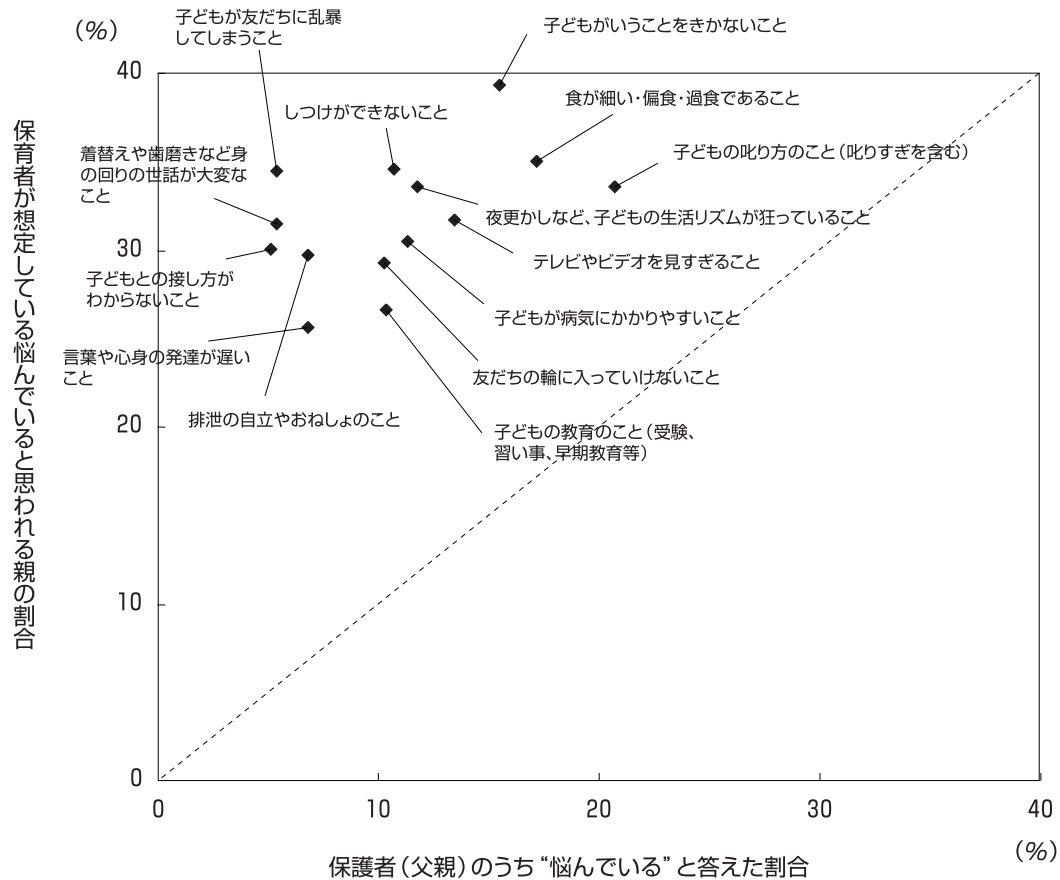
図表6-9 悩んだり、不安に思っている保護者（母親）の割合と保育者が想定している悩んでいると思われる親の割合



(詳しいデータ)

	保育者 (%)	母親 (%)	保育者と保護者の差 (ポイント)
子どもがいうことをきかないこと	39.3	28.6	10.7
着替えや歯磨きなど身の回りの世話が大変なこと	31.5	7.8	23.7
夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること	33.6	14.0	19.6
テレビやビデオを見すぎる	31.7	17.4	14.4
しつけができないこと	34.6	18.0	16.6
子どもが友だちに乱暴してしまうこと	34.5	7.5	27.0
友だちの輪に入っていけないこと	29.3	13.2	16.1
子どもが病気にかかりやすいこと	30.5	14.9	15.6
食が細い・偏食・過食であること	35.0	24.5	10.5
排泄の自立やおねしょのこと	29.7	12.0	17.7
言葉や心身の発達が遅いこと	25.6	12.0	13.6
子どもの教育のこと(受験、習い事、早期教育等)	26.7	15.1	11.6
子どもの叱り方(叱りすぎを含む)	33.6	44.9	-11.3
子どもと接し方がわからないこと	30.0	10.0	20.1

図表6-10 悩んだり、不安に思っている保護者（父親）の割合と保育者が想定している悩んでいると思われる親の割合



（詳しいデータ）

	保育者 (%)	父親 (%)	保育者と保護者の差 (ポイント)
子どもがいうことをきかないこと	39.3	15.4	23.9
着替えや歯磨きなど身の回りの世話が大変なこと	31.5	5.4	26.1
夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること	33.6	11.7	21.9
テレビやビデオを見すぎる	31.7	13.4	18.3
しつけができないこと	34.6	10.7	23.8
子どもが友だちに乱暴してしまうこと	34.5	5.4	29.1
友だちの輪に入っていけないこと	29.3	10.3	19.0
子どもが病気にかかりやすいこと	30.5	11.3	19.2
食が細い・偏食・過食であること	35.0	17.2	17.9
排泄の自立やおねしょのこと	29.7	6.8	22.8
言葉や心身の発達が遅いこと	25.6	6.8	18.7
子どもの教育のこと（受験、習い事、早期教育等）	26.7	10.3	16.3
子どもの叱り方のこと（叱りすぎを含む）	33.6	20.7	12.9
子どもとの接し方がわからないこと	30.0	5.2	24.8

(4) 子育ての悩みに関する保育園・幼稚園への要望

保育園・幼稚園への要望として、「情報提供がほしい」と「先生に相談したい」の2項目について、それぞれの項目で悩んでいるまたは悩んでないと答えた保護者別に回答割合をみてみたい。

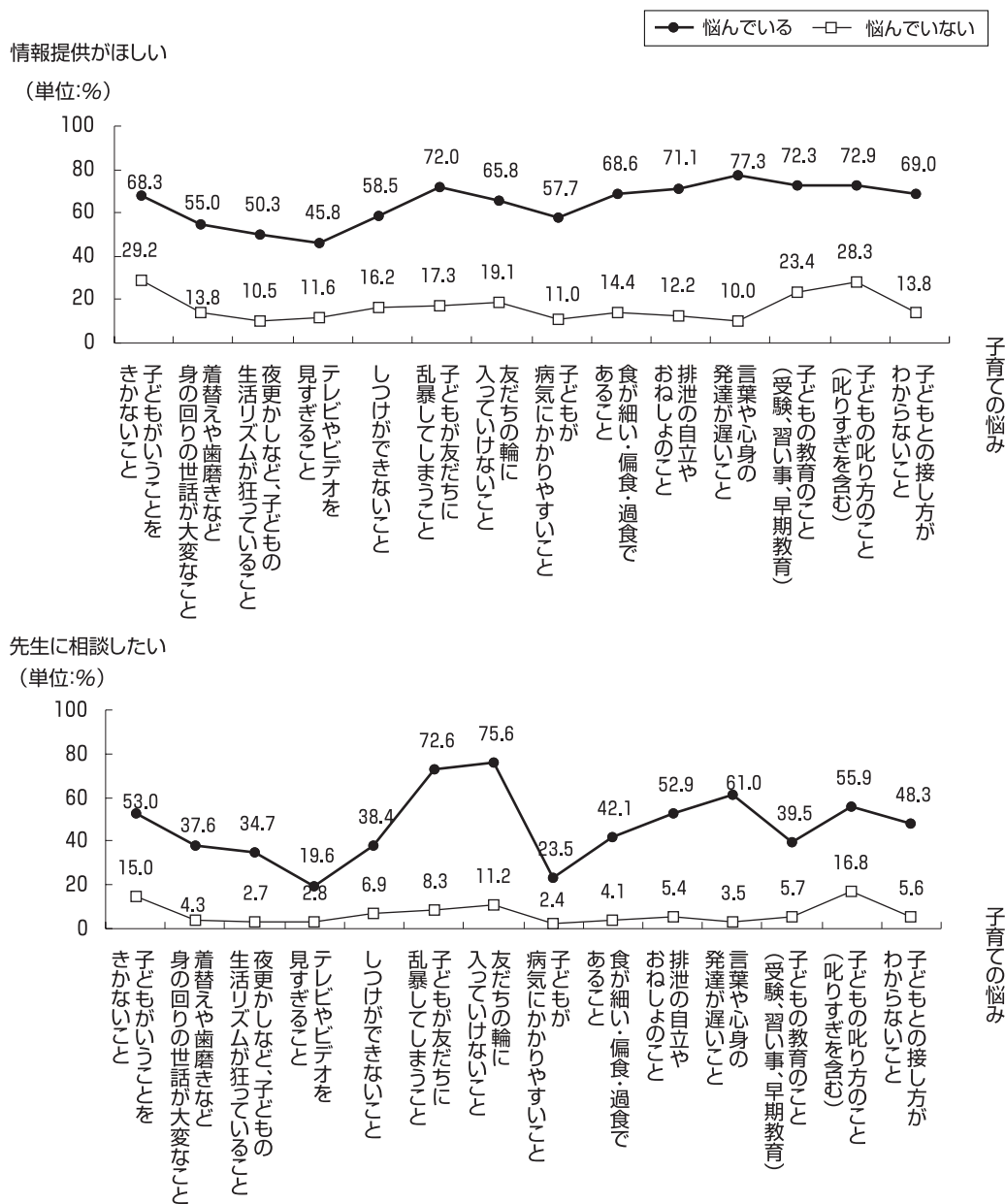
まず、「情報提供がほしい」と答えた割合は、悩んでいる人では、悩んでいない人に比べて回答率はいずれの項目でも高い（図表6-11）。悩んでいないと答えた人でも回答率が2割以上みられたのは、「子どもがいうことをきかない」（29.2%）と「子どもの叱り方のこと」（28.3%）、「子どもの教育のこと」（23.4%）であった。悩みの有無にかかわらず、保護者にとって気にかかることとして、子どものしつけや教育の情報が求められているようだ。

次に、「先生に相談したい」と答えた割合でも同様に、悩んでいる保護者の方が悩んでいない保護者よりもいずれの項目でも回答率が高い。しかし、「テレビやビデオを見すぎること」と「子どもが病気にかかりやすいこと」では、それぞれ16.8ポイント、21.1ポイントの差にとどまっている。それぞれについて悩んでいる保護者でも、情報提供はほしいが、保育者に相談したいという割合はそれぞれ19.6%、23.5%で2割前後と低く、テレビの視聴や子どもの病気については保育園や幼稚園の保育者に相談することではないという傾向が保護者の間にみられる。

一方、悩んでいる保護者で「先生に相談したい」という回答が多かったのは、「友だちの輪に入っていけないこと」（75.6%）と「子どもが友だちに乱暴をしてしまうこと」（72.6%）が7割以上、次いで「言葉や心身の発達が遅いこと」（61.0%）、「子どもの叱り方のこと」（55.9%）などであった。特に、子ども同士の関係について悩んでいる保護者では、保育者に相談したい割合が高くなっている。

図表6-8に示したように、「子どもが友だちに乱暴をしてしまうこと」や「友だちの輪に入っていけないこと」「言葉や心身の発達が遅いこと」について悩んでいる割合は、それぞれ6.6%、11.9%、5.9%と、その他の項目に比べて特に高いとはいえない。しかし、悩んでいる親にとって、保育者に相談したいと思う割合は両者の項目で高い。確かに、全体として悩んでいる親が多かった「子どもの叱り方のこと」や「子どもがいうことをきかないこと」でも、悩んでいる親では半数以上が保育者に相談したいと答えているが、「子どもが友だちに乱暴をしてしまうこと」や「友だちの輪に入っていけないこと」に比べるとその割合は低い。したがって、叱り方や子どものしつけについては、多くの親が悩むことであるため、保護者にとって精神的な負担はそれほど大きなものではないことが推測される。一方、「子どもが友だちに乱暴をしてしまうこと」や「友だちの輪に入っていけないこと」「言葉や心身の発達が遅いこと」は、悩んでいる親が相対的に少ないが、悩んでいる親にとっては悩みの内容から、他の人ではなく保育者に相談したいというニーズが高いのではないかと考えられる。

図表6-11 保護者の子育ての悩みの有無別にみる保育園・幼稚園への要望



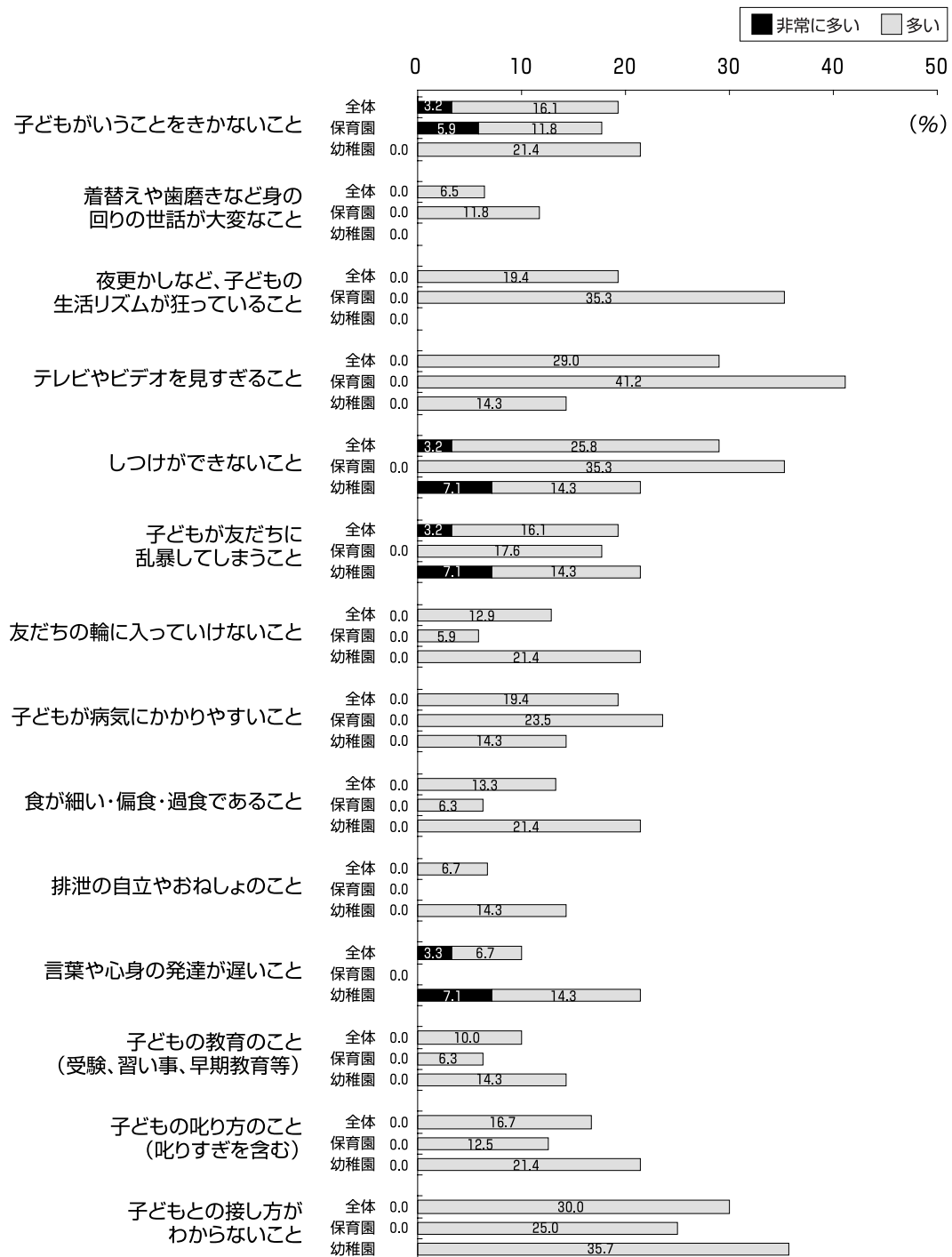
(5) 園長による保護者の子育ての悩みの把握

園長が、園全体で、悩みや不安を抱えている家庭が多いと考えているか、少ないと考えているか、同様の14項目についてたずねた。図表6-12に、多い(「非常に多い」と「多い」の合計)と答えた割合を示した。

保育園・幼稚園別でみると、保育園で幼稚園よりも回答が多かった「夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること」で、保育園では35.3%が多いと答え、幼稚園(0.0%)に大きく差がみられる。その他には、「テレビやビデオを見すぎる」、「しつけができていないこと」、「子どもが病気にかかりやすいこと」で、それぞれ保育園が41.2%、35.3%、23.5%であるのに対し、幼稚園では14.3%、21.4%、14.3%となっている。

担任の保育者による回答で、幼稚園で保育園よりも回答が多かった「友だちの輪に入っていけないこと」、「食が細い・偏食・過食であること」については、園全体としても、悩みを抱えている家庭があることが認識されている。その他にも、「排泄の自立やおねしょのこと」「言葉や心身の発達が遅いこと」「子どもの教育のこと」「子どもの叱り方のこと」「子どもとの接し方がわからないこと」について、幼稚園では保育園に比べて、不安を抱えている家庭が多いと答えた割合が高くなっている。

図表6-12 園全体で悩みを抱えている家庭



注) 保育園は、私立・公立別ではサンプル数が少ないため合算し n=17、幼稚園は n=14である

(6) 園による保護者の子育ての悩みへの対応

①保育者が、日頃、保護者と話をする頻度

担当の保育者が、どのような頻度で保護者と悩みや不安について話し合う機会があるのだろうか。図表6-13に示したように、14項目いずれについても、過半数以上の大半が「月に2～3回以下」の頻度で話をしており、「ほぼ毎日」という回答は、ほとんどみられない。

保育園・幼稚園別では、「夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること」を、週2回以上話をすると答えた割合は、私立保育園（22.7%）と公立保育園（18.3%）で高く、幼稚園（6.7%）で低くなっている。逆に、「友だちの輪に入っていけないこと」と「子どもが友だちに乱暴してしまうこと」では、幼稚園でそれぞれ22.9%、23.8%であったのに対し、私立保育園（7.9%、15.9%）と公立保育園（8.6%、15.1%）で低い。

図表6-13 悩んだり、不安に思っていることについて保護者と話をする頻度

	n	ほぼ毎日 (A)	週に2～3 回(B)	週に1回程 度	月に2～3回 以下	週に2回以上 (A+B)
子どもがいうことをきかないこと	全体 411	5.6	17.0	28.2	49.1	22.6
	私立保育園 125	6.4	20.0	28.0	45.6	26.4
	公立保育園 121	8.3	18.2	27.3	46.3	26.4
	幼稚園 165	3.0	13.9	29.1	53.9	17.0
着替えや歯磨きなど身の回りの世話が大変なこと	全体 411	1.9	9.5	24.8	63.7	11.4
	私立保育園 125	2.4	9.6	23.2	64.8	12.0
	公立保育園 120	3.3	9.2	30.8	56.7	12.5
	幼稚園 166	0.6	9.6	21.7	68.1	10.2
夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること	全体 413	2.7	12.3	21.8	63.2	15.0
	私立保育園 128	3.9	18.8	24.2	53.1	22.7
	公立保育園 120	3.3	15.0	28.3	53.3	18.3
	幼稚園 165	1.2	5.5	15.2	78.2	6.7
テレビやビデオを見すぎる	全体 403	1.5	4.7	12.9	80.9	6.2
	私立保育園 122	2.5	1.6	15.6	80.3	4.1
	公立保育園 116	1.7	6.0	12.1	80.2	7.8
	幼稚園 165	0.6	6.1	11.5	81.8	6.7
しつけができないこと	全体 404	2.5	8.9	22.5	66.1	11.4
	私立保育園 125	3.2	7.2	24.0	65.6	10.4
	公立保育園 115	3.5	9.6	22.6	64.3	13.0
	幼稚園 164	1.2	9.8	21.3	67.7	11.0
子どもが友だちに乱暴してしまうこと	全体 409	5.4	13.4	31.1	50.1	18.8
	私立保育園 126	4.8	11.1	31.7	52.4	15.9
	公立保育園 119	6.7	8.4	27.7	57.1	15.1
	幼稚園 164	4.9	18.9	32.9	43.3	23.8
友だちの輪に入っていけないこと	全体 409	1.7	12.5	19.6	66.3	14.2
	私立保育園 126	1.6	6.3	13.5	78.6	7.9
	公立保育園 117	0.9	7.7	15.4	76.1	8.5
	幼稚園 166	2.4	20.5	27.1	50.0	22.9
子どもが病気にかかりやすいこと	全体 404	3.7	12.9	19.6	63.9	16.6
	私立保育園 124	3.2	12.9	22.6	61.3	16.1
	公立保育園 117	5.1	17.1	18.8	59.0	22.2
	幼稚園 163	3.1	9.8	17.8	69.3	12.9
食が細い・偏食・過食であること	全体 409	4.4	14.9	25.4	55.3	19.3
	私立保育園 127	5.5	15.0	23.6	55.9	20.5
	公立保育園 118	3.4	11.9	30.5	54.2	15.3
	幼稚園 164	4.3	17.1	23.2	55.5	21.3
排泄の自立やおねしょのこと	全体 407	3.2	11.5	19.2	66.1	14.7
	私立保育園 124	4.0	9.7	21.0	65.3	13.7
	公立保育園 118	2.5	16.9	16.1	64.4	19.5
	幼稚園 165	3.0	9.1	20.0	67.9	12.1
言葉や心身の発達が遅いこと	全体 408	2.2	7.8	15.4	74.5	10.0
	私立保育園 124	1.6	4.0	17.7	76.6	5.6
	公立保育園 119	1.7	7.6	10.9	79.8	9.2
	幼稚園 165	3.0	10.9	17.0	69.1	13.9
子どもの教育のこと (受験、習い事、早期教育等)	全体 404	1.0	5.0	6.7	87.4	5.9
	私立保育園 123	1.6	2.4	6.5	89.4	4.1
	公立保育園 117	0.9	5.1	6.0	88.0	6.0
	幼稚園 164	0.6	6.7	7.3	85.4	7.3
子どもの叱り方のこと(叱りすぎを含む)	全体 409	2.2	8.3	19.6	69.9	10.5
	私立保育園 126	3.2	4.8	21.4	70.6	7.9
	公立保育園 118	2.5	10.2	11.0	76.3	12.7
	幼稚園 165	1.2	9.7	24.2	64.8	10.9
子どもとの接し方がわからないこと	全体 408	3.4	8.1	19.6	68.9	11.5
	私立保育園 125	2.4	7.2	24.0	66.4	9.6
	公立保育園 118	5.1	8.5	15.3	71.2	13.6
	幼稚園 165	3.0	8.5	19.4	69.1	11.5

②園長が担任の保育者と話し合う頻度

園長が担任の保育者と話し合う頻度について、図表6-14にそれぞれの項目ごとに示した。全体的に、ほぼすべての項目で「月に2～3回以下」の回答が多い。詳細をみると、「子どもがいうことをきかないこと」について、保育園では、「週に1回程度」と「月に2～3回以下」がともに35.3%で、幼稚園の「月に2～3回以下」(57.1%)に比べると、頻度が高い割合がやや高い。

図表6-14 園で担任の保育者と話し合う頻度

		n	ほぼ毎日 (A)	週に2～3 回(B)	週に1回程 度	月に2～3回 以下	週に2回以上 (A+B)
子どもがいうことをきかないこと	全体	31	9.7	16.1	29.0	45.2	25.8
	保育園	17	17.6	11.8	35.3	35.3	29.4
	幼稚園	14	0.0	21.4	21.4	57.1	21.4
着替えや歯磨きなど身の回りの世話が大変なこと	全体	31	6.5	0.0	22.6	71.0	6.5
	保育園	17	11.8	0.0	29.4	58.8	11.8
	幼稚園	14	0.0	0.0	14.3	85.7	0.0
夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っていること	全体	31	6.5	9.7	16.1	67.7	16.1
	保育園	17	11.8	17.6	23.5	47.1	29.4
	幼稚園	14	0.0	0.0	7.1	92.9	0.0
テレビやビデオを見すぎる	全体	30	6.7	3.3	26.7	63.3	10.0
	保育園	16	12.5	6.3	25.0	56.3	18.8
	幼稚園	14	0.0	0.0	28.6	71.4	0.0
しつけができないこと	全体	29	6.9	13.8	37.9	41.4	20.7
	保育園	15	13.3	13.3	26.7	46.7	26.7
	幼稚園	14	0.0	14.3	50.0	35.7	14.3
子どもが友だちに乱暴してしまうこと	全体	31	9.7	12.9	38.7	38.7	22.6
	保育園	17	17.6	11.8	29.4	41.2	29.4
	幼稚園	14	0.0	14.3	50.0	35.7	14.3
友だちの輪に入っていけないこと	全体	31	6.5	12.9	25.8	54.8	19.4
	保育園	17	11.8	11.8	23.5	52.9	23.5
	幼稚園	14	0.0	14.3	28.6	57.1	14.3
子どもが病気にかかりやすいこと	全体	31	9.7	6.5	16.1	67.7	16.1
	保育園	17	17.6	11.8	23.5	47.1	29.4
	幼稚園	14	0.0	0.0	7.1	92.9	0.0
食が細い・偏食・過食であること	全体	31	9.7	3.2	25.8	61.3	12.9
	保育園	17	17.6	0.0	35.3	47.1	17.6
	幼稚園	14	0.0	7.1	14.3	78.6	7.1
排泄の自立やおねしょのこと	全体	31	6.5	3.2	19.4	71.0	9.7
	保育園	17	11.8	5.9	29.4	52.9	17.6
	幼稚園	14	0.0	0.0	7.1	92.9	0.0
言葉や心身の発達が遅いこと	全体	31	9.7	16.1	29.0	45.2	25.8
	保育園	17	17.6	17.6	23.5	41.2	35.3
	幼稚園	14	0.0	14.3	35.7	50.0	14.3
子どもの教育のこと (受験、習い事、早期教育等)	全体	31	6.5	0.0	19.4	74.2	6.5
	保育園	17	11.8	0.0	23.5	64.7	11.8
	幼稚園	14	0.0	0.0	14.3	85.7	0.0
子どもの叱り方のこと(叱りすぎを含む)	全体	31	6.5	9.7	38.7	45.2	16.1
	保育園	17	11.8	5.9	41.2	41.2	17.6
	幼稚園	14	0.0	14.3	35.7	50.0	14.3
子どもとの接し方がわからないこと	全体	31	6.5	12.9	35.5	45.2	19.4
	保育園	17	11.8	17.6	35.3	35.3	29.4
	幼稚園	14	0.0	7.1	35.7	57.1	7.1

(7) 保護者とのコミュニケーション

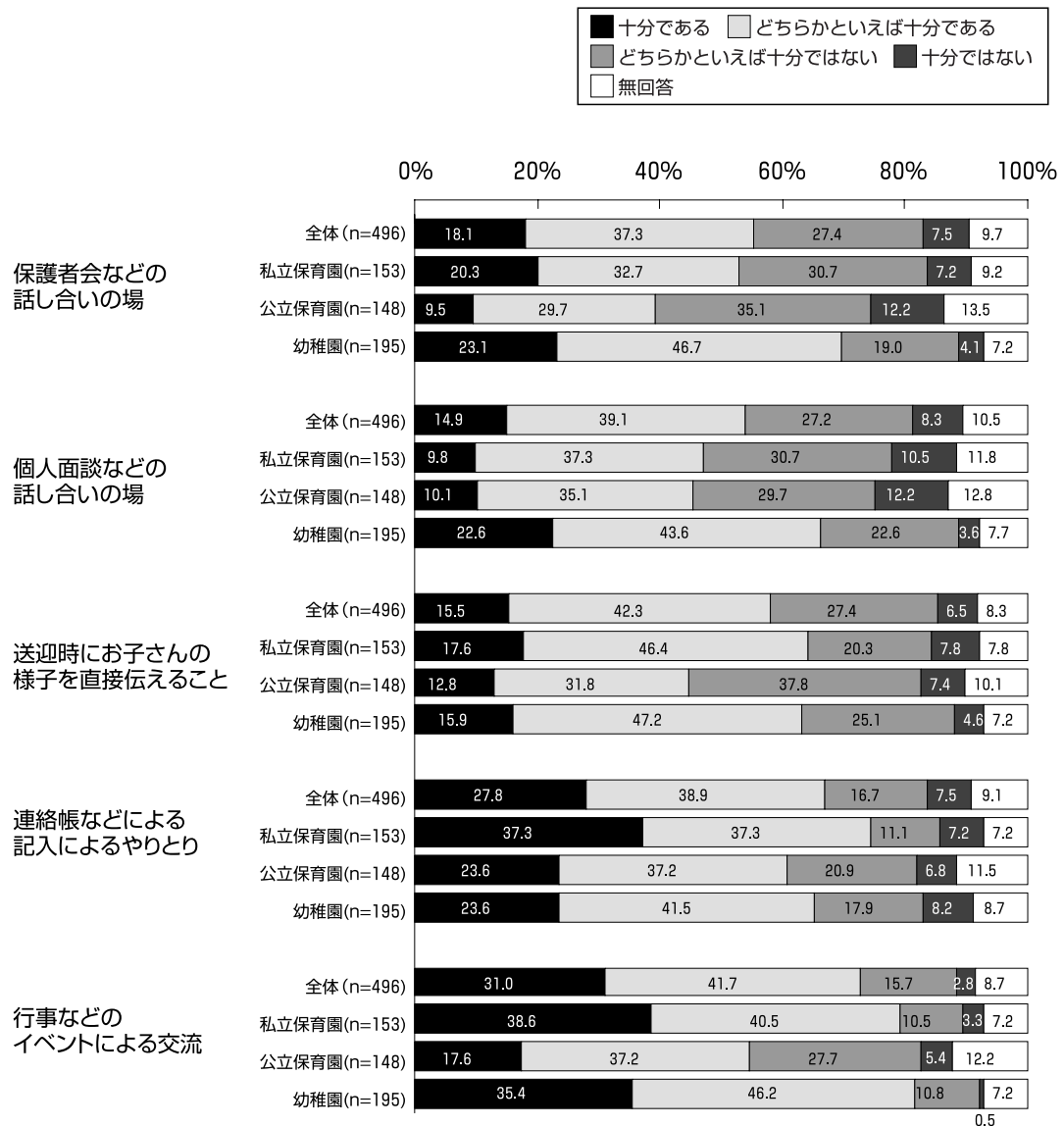
保育者に対し、保護者とのコミュニケーションについて、現在の頻度で十分と思うかどうかたずねた。コミュニケーションの方法としてあげた項目は、「保護者会などの話し合いの場」から「行事などのイベントによる交流」の5つである。

その結果、保育園・幼稚園別で、コミュニケーションの方法別に、やや回答に差がみられた（図表6-15）。まず、「保護者会などの話し合いの場」と「個人面談の話し合いの場」では、幼稚園ではそれぞれ69.8%、66.2%が十分（「十分である」と「どちらかといえば十分である」の合計）と答えたのに対し、私立保育園では53.0%、47.1%、公立保育園では39.2%、45.2%で、十分と答えた割合は幼稚園に比べて低い。一方、「送迎時にお子さんの様子を直接伝えること」と「行事などのイベントによる交流」では、十分と答えた割合は、私立保育園（それぞれ64.0%、79.1%）と幼稚園（63.1%、81.6%）で高く、公立保育園（44.6%、54.8%）で低くなっている。「連絡帳などによる記入のやりとり」は私立保育園で74.6%の保育者が十分と答えており、公立保育園（60.8%）と幼稚園（65.1%）でも6割以上みられるが、約10ポイントも高い。

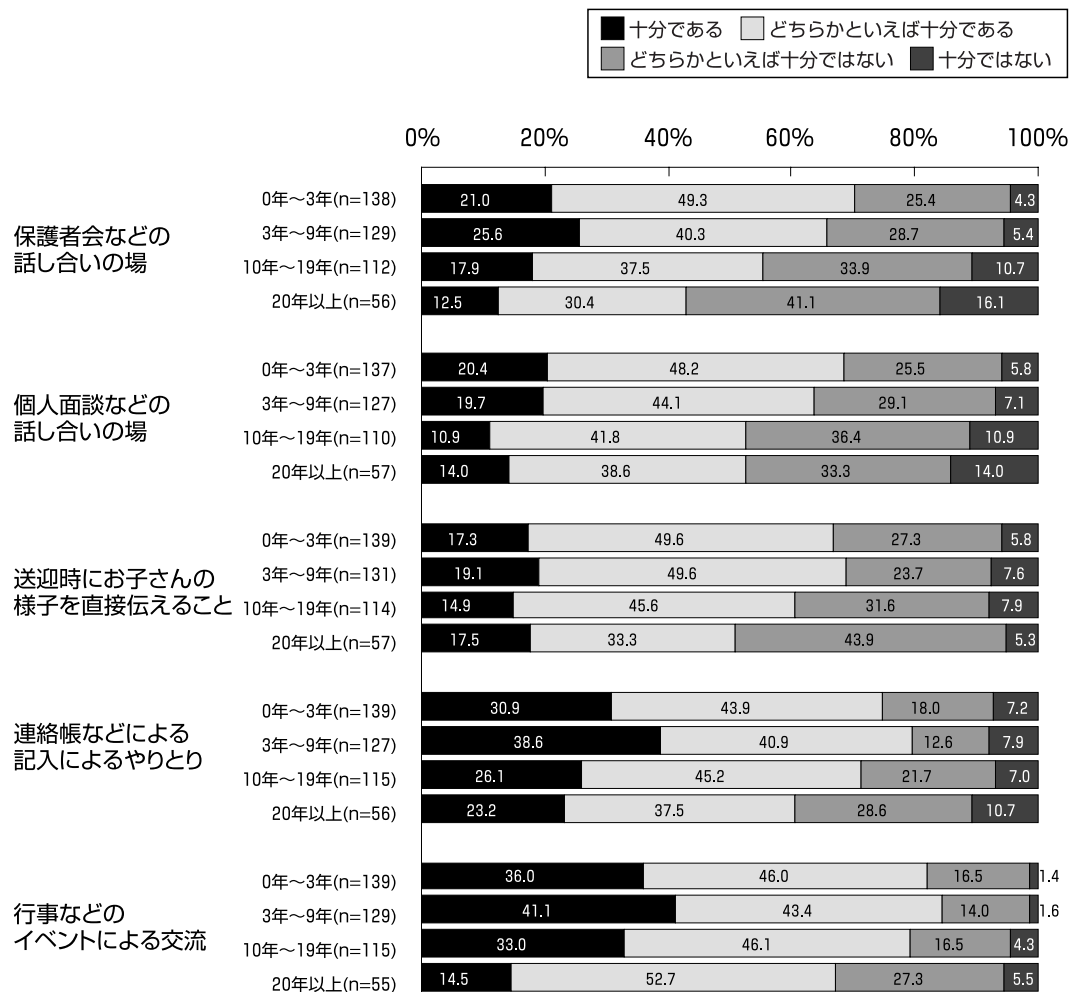
いずれのコミュニケーション方法についても、公立保育園の保育者の回答が、私立保育園と幼稚園の同様の回答に比べて十分と答える割合が低く、なかでも「保護者会での話し合いの場」と「送迎時にお子さんの様子を直接伝える」頻度が少ないと感じている傾向がみられる。

ここで、保育者の経験年数と保護者とのコミュニケーションとの関係をみてみると、いずれの項目についても、保育者の経験年数が長いほど、コミュニケーションの頻度が「どちらかといえば十分ではない」または「十分ではない」と答えた割合が高くなっている傾向がみられる（図表6-16）。なかでも、「保護者会などの話し合いの場」では、経験年数が「0年～3年」の保育者では70.3%が“十分”と答えたのに対し、「20年以上」の保育者では42.9%と半数に満たない。これは、経験年数の長い保育者は、以前と比べて保護者とコミュニケーションをとる頻度が低くなっていると感じているためではないかと思われる。いずれにしても、公立保育園の保育者で保護者とのコミュニケーション頻度が少ないと感じている傾向がみられたが、その要因の1つとして、公立保育園では経験年数の長い保育者の割合が高いことがあげられる。

図表6-15 保護者とのコミュニケーションの現在の頻度は十分か(保育園・幼稚園別)



図表6-16 保護者とのコミュニケーションの現在の頻度は十分か（保育者の経験年数別）



注) 「無回答」を除いた集計結果

(8) 保育者からみた保護者の子育ての状況

保育者に、担当しているクラスの保護者の子育ての状況をたずねた。

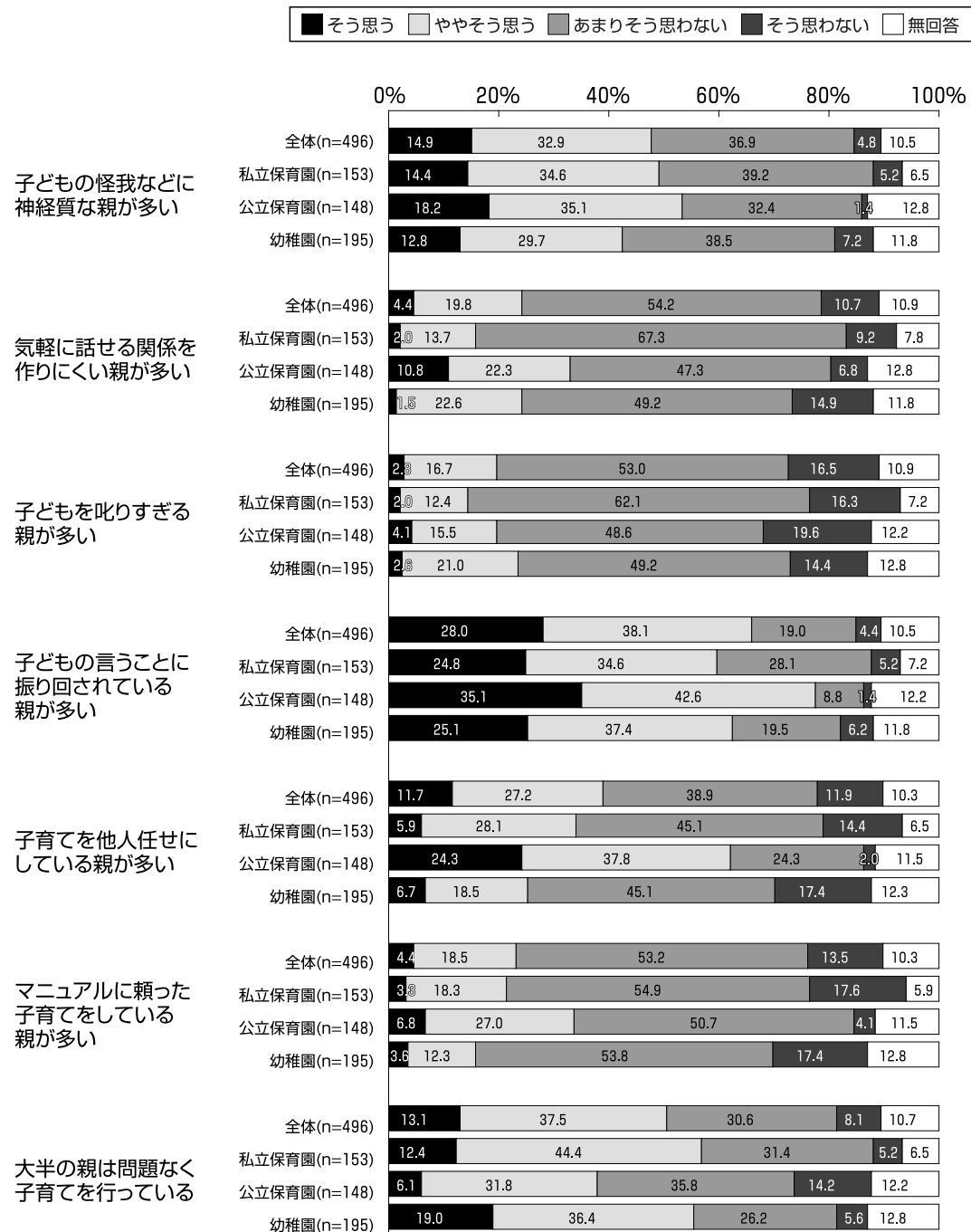
保育者が保護者の子育ての状況の7項目について、そう思う（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）を該当割合とすると、全体として最も回答が多かったのは、「子どもの言うことに振り回されている親が多い」（66.1％）であった（図表6-17）。次いで、「大半の親は問題なく子育てを行っている」（50.6％）、「子どもの怪我などに神経質な親が多い」（47.8％）、「子育てを他人任せにしている親が多い」（38.9％）、「気軽に話せる関係を作りにくい親が多い」（24.2％）、「マニュアルに頼った子育てをしている親が多い」（22.9％）、「子どもを叱りすぎる親が多い」（19.5％）の順となった。

これらの回答は、保育園・幼稚園別でみると差がみられる。最も回答が多かった、「子どもの言うことに振り回されている親が多い」は、公立保育園（77.7％）、幼稚園（62.5％）、私立保育園（59.4％）の順となっており、幼稚園や保育園でも約6割と高いが、公立保育園で最も回答率が高い。この回答とは対照的に、「大半の親は問題なく子育てを行っている」の該当割合は、私立保育園（56.8％）、幼稚園（55.4％）、公立保育園（37.9％）の順となっており、公立保育園の保育者で4割未満と回答率が低い。

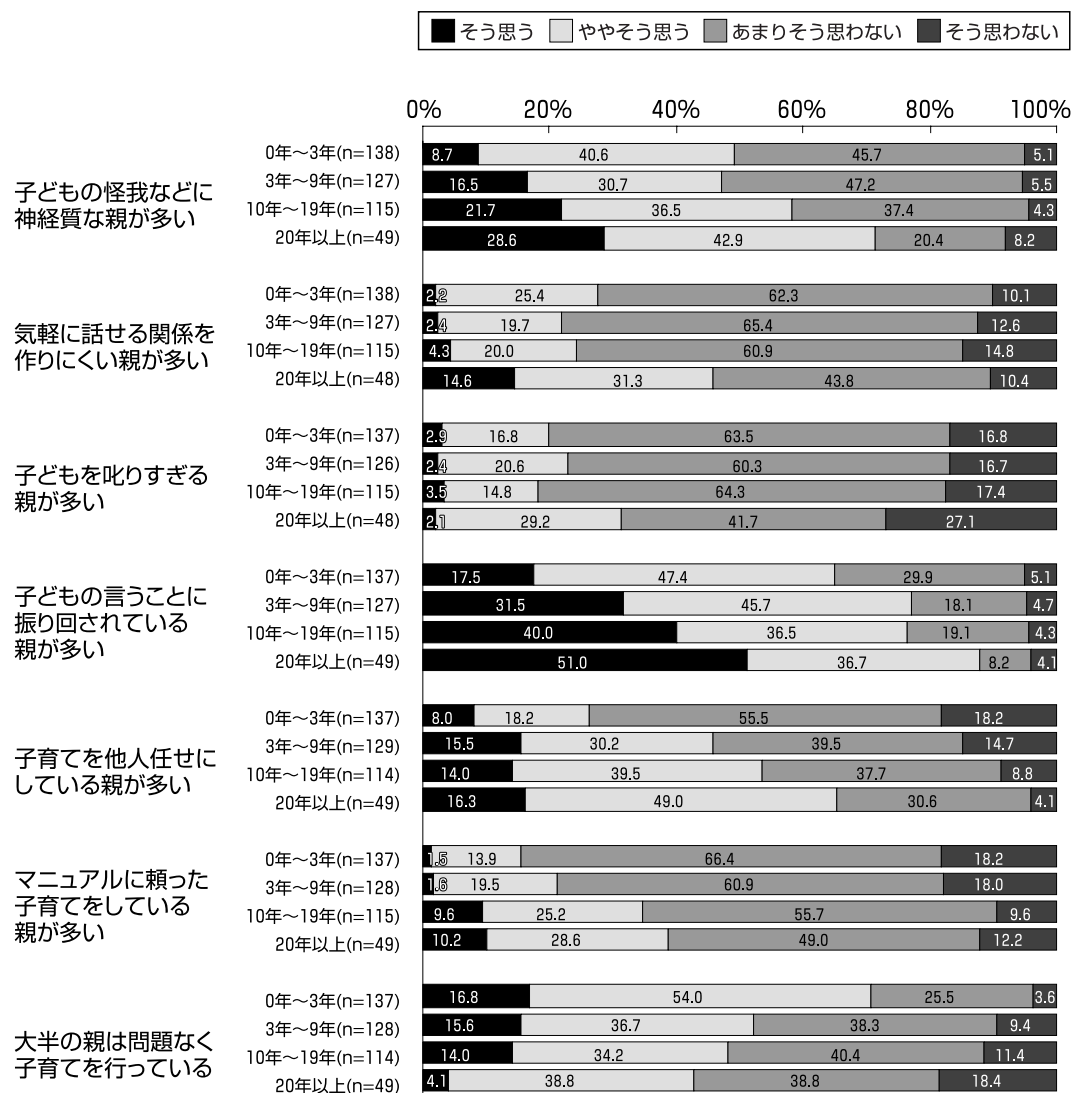
その他、「子どもを叱りすぎる親が多い」を除き、「子どもの怪我などに神経質な親が多い」「子育てを他人任せにしている親が多い」「気軽に話せる関係を作りにくい親が多い」「マニュアルに頼った子育てをしている親が多い」では、いずれも公立保育園で、私立保育園や幼稚園に比べて回答率が高くなっている。なかでも特に差がみられたのは、「子育てを他人任せにしている親が多い」で、公立保育園（62.1％）では6割以上であったのに対し、私立保育園と幼稚園ではそれぞれ34.0％、25.2％と3割前後となっている。また、「マニュアルに頼った子育てをしている親が多い」でも、公立保育園では33.8％の回答がみられるが、私立保育園と幼稚園ではそれぞれ21.6％、15.9％とやや低い。以上から、公立保育園の保育者では、私立保育園や幼稚園の保育者に比べ、担当している保護者の子育て状況に問題を感じている割合が高い傾向がみられる。

一方、保育者の経験年数と保護者の子育ての状況の認識との関係をみてみると、いずれの項目でも、経験年数が長い保育者で、保護者の子育ての状況について問題を感じている割合が高い傾向がみられる（図表6-18）。図表6-7に示したように、経験年数が長い保育者の割合が高い公立保育園で、保護者の子育ての状況について問題を感じる割合が高くなっているといえよう。

図表6-17 担当しているクラスの保護者の子育ての状況（保育園・幼稚園別）



図表6-18 担当しているクラスの保護者の子育ての状況（保育者の経験年数別）



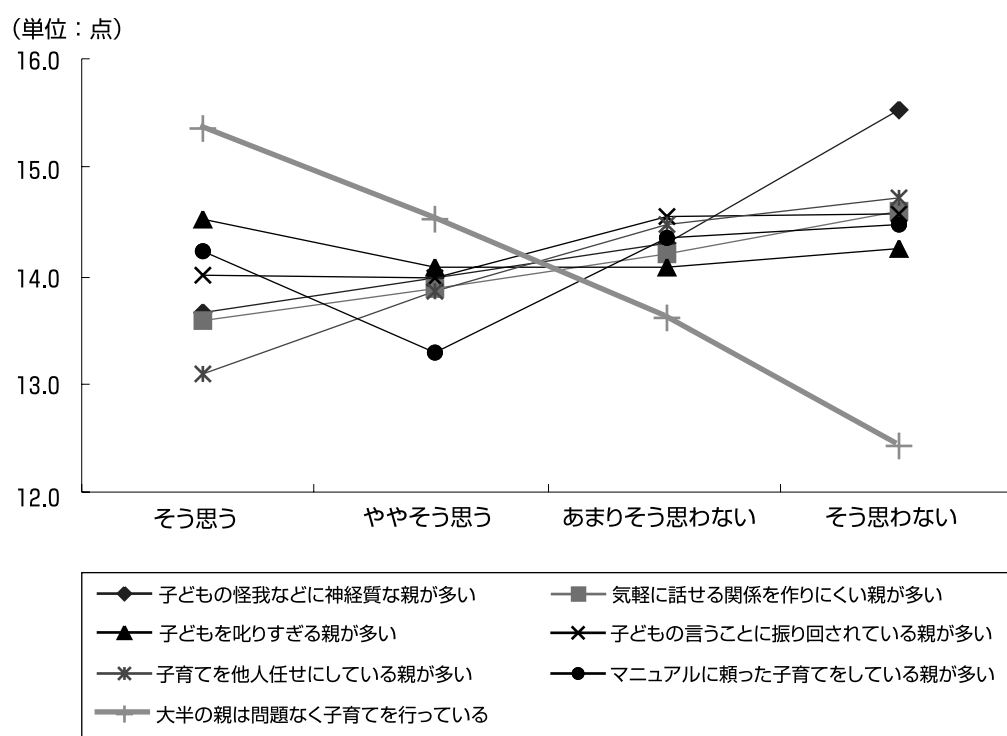
注) 「無回答」を除いた集計結果

ここで、保育者の保護者とのコミュニケーション（図表6-15）の5項目について、「十分である」を4点、「十分ではない」と1点とした場合の合計得点と、保護者の子育ての状況との関係（図表6-17）をみてみたものが図表6-19である。「大半の親は問題なく子育てを行っている」について「そう思う」と答えた保育者では、保護者とのコミュニケーション得点は高く、逆に、「そう思わない」と答えた保育者ほど、コミュニケーション得点は低くなっている。「子どもの怪我などに神経質な親が多い」「子育てを他人任せにしている親が多い」「気軽に話せる関係を作りにくい親が多い」でも、同様にコミュニケーション得点が高いほど保護者の保育状況に肯定的な回答が多く、コミュニケーション得点が低いほど否定的な回答が多くなっている。

この結果から、保育者と保護者のコミュニケーションの頻度が、保育者の保護者の保育状況の認識を変化させるひとつの要因であるといえる。保護者とのコミュニケーションの頻度が十分で

ないという回答が多かった公立保育園では、保護者とのコミュニケーションがより図られることで、子育て状況の認識も変わることが予測される。一方、公立保育園では経験年数が長い保育者の割合が高く、経験年数が長い保育者では保護者とのコミュニケーションの頻度が低いと考えていることは前述した通りである。経験年数が長い保育者の場合には、保護者の子育て状況の認識について、その評価は長年の経験による相対的な評価となっていることが予測される。一概にはいえないが、経験年数の長い保育者が保護者とのコミュニケーションの頻度を高めることで、保育者の子育ての状況の認識が変化するとともに、保護者側にとっても、経験年数の長い保育者によるサポートが得られる環境がより整うことになると考えられる。

図表6-19 担当しているクラスの保護者の子育ての状況の回答別にみる保護者とのコミュニケーション頻度得点



4. まとめ

本章では、保育園・幼稚園での保育者と保護者との話をする機会、保護者への対応、保護者の育児不安・子育ての把握状況についてみてきた。本章の分析から、以下の点が示された。

第一に、保育園・幼稚園の保育者との接触の頻度は父親で低く、母親では接触の頻度に比例して会話が行われる割合が高く、その割合は親が保育園や幼稚園に迎えに行く頻度とほぼ比例していた。

第二に、保護者による保育園・幼稚園による対応の評価は、子どもへの理解や保育者とのコミュニケーション、子育ての一体感などで肯定的な回答が多く、大半の保護者に対し、園による対応がなされていることがうかがえた。なかでも、私立保育園の保護者（母親）では、公立保育園や幼稚園に比べて、担任の保育者による対応の評価が高くなっている。

第三に、保育園・幼稚園による保護者の育児不安の把握状況では、保育園保育者では、子どものしつけに対して悩んだり、不安に思っている保護者の割合が高いと把握している一方、幼稚園の保育者では、子供同士の関係に悩みや不安を抱く保護者の割合が高いと把握していた。保護者の悩んだり不安に思っている割合と、保育者が思う保護者の悩んだり不安に思っていると思われる割合を比較した結果、「子どもの叱り方のこと（叱りすぎを含む）」のみで、保護者が不安に思う割合（33.6%）が、保育者が不安に思っている保護者の割合（34.4%）をやや超えていた。特に、母親で「子どもの叱り方」について45.2%が悩んでいると答えたのに対し、保育者の想定では33.6%にとどまっており、両者間にギャップが生じている。その他の項目では、いずれも保育者の想定が実際の保護者の悩んでいる割合を上回っていた。「子どもの叱り方」に悩む割合は父母ともに悩み事の中で最も高いことから、保育者が思う以上に悩んでいる親は多く、より多くの保護者への支援や相談対応が必要だろう。

第四に、子育ての悩みに関する保育園・幼稚園への要望として、悩みの有無別に、情報提供がほしいか、保育者に相談したいかをたずねた。その結果、情報提供がほしいと答えた割合は、全般的に悩んでいると答えた親ではいずれの項目でも約半数から7割以上で情報提供を求めているが、悩んでいないと答えた親でも、「子どもの叱り方のこと」について約3割が情報提供を求めている。保育者に相談したいと答えた割合は、最も悩んでいる親の割合が高かった「子どもの叱り方のこと」で悩んでいる親が55.9%であったのに対し、「友だちの輪に入っていけないこと」、「子どもが友だちに乱暴してしまうこと」でそれぞれ悩んでいる親の7割以上が相談したいと答えている。悩んでいる親の割合は、後半の両者はそれぞれ12.0%、6.6%と低かったが、保育者に相談したい割合は高い。悩みの内容が友だちの関係にあることから、保育者に相談し、園による支援などで悩みを解消したいという親のニーズは高いことが予測され、一部の保護者には、この点において支援の充実が必要と思われる。

第五に、園長による保護者の育児不安の把握状況は、保育者による把握状況に比例して、園長の把握がみられており、なかでも「夜更かしなど、子どもの生活リズムが狂っている」という保護者の悩みが保護者の回答、保育者の認識ともに高かった保育園では、園長も把握している傾向がみられた。逆に、幼稚園の保育者で保育園の保育者よりも高かった家庭での悩みごとの把握は、園長の側でも同様に認識されていた。

最後に、保護者とのコミュニケーションの頻度について保育者が十分であると答えた割合は、保育園・幼稚園別に差がみられ、保護者会、個人面談、送迎時の会話、行事などのイベント、連絡帳などいずれにおいても、公立保育園の保育者で、私立保育園と幼稚園に比べて十分であると思う割合が低い傾向にあった。同様に、保育者からみた保護者の子育ての状況についても、公立保育園で「子どもの言うことに振り回されている親が多い」が約8割と最も高く、「子育てを他人任せにしている親が多い」も6割以上と高かった。このことは、経験年数の長い保育者の割合が高い公立保育園では、保護者の子育てに対する評価が長年の経験の上の相対的な評価となっているのではないと思われる。一方、保育者による保護者の子育て状況の評価と保育者の保護者とのコミュニケーションの頻度との関係をみると、コミュニケーションの頻度が高かった保育者では、保護者の保育状況について肯定的な傾向がみられ、逆にコミュニケーションの頻度が低いと否定的な傾向がみられた。コミュニケーションの度合いが、保育者による保護者の評価

に影響を与えているひとつの要因ともなっていることが推測される。特に、経験の長い保育者の占める割合が高く、保護者の子育て状況について厳しい回答割合が高かった公立保育園では、経験年数の長い保育者と保護者とのコミュニケーションの場を増やし、保護者にとって経験豊富な保育者による支援や助言を受ける機会を充実させることも今後必要ではないかと考えられる。

第7章 保育園・幼稚園のサポート、育児不安・悩み、追加出産意欲の関係

1. 保育園・幼稚園のサポートと保護者の育児不安・悩み

(1) 保育園・幼稚園のサポート

本章では、保育園・幼稚園からのサポート、保護者の育児不安や子育ての悩み、追加出産意欲の関係を分析する。本章における分析課題は、次の2点である。第一は、保育園・幼稚園から保護者に対するサポートが、保護者の育児不安や子育ての悩みを軽減しているか否かという点を明らかにすることである。第二は、保護者の育児不安や子育ての悩みが、追加出産意欲を減退させているか否かを解明することである。以上の課題を明らかにすることで、保育園・幼稚園からのサポートが、保護者の育児不安や子育ての悩みを軽減し、ひいては追加出産意欲を高めるという関連の有無を示す。

分析に使用した保育園・幼稚園から保護者に対するサポートの質問項目は、図表7-1にあげた「担任の先生は、あなたの子どもをよく理解してくれている」から、「担任の先生がいないときには、他の先生に引き継ぎをしてくれているので不安はない」までの8項目である。各々について、「当てはまる」「まあ当てはまる」「あまり当てはまらない」「ほとんど当てはまらない」「わからない」までの5件法で尋ねている。保育園・幼稚園から保護者に対するサポートと育児不安等の関係を分析するために、ここでは図表7-1の質問項目をもとに保育園・幼稚園から保護者に対するサポートの合成尺度を作成した。合成尺度は、図表7-1の各質問に対する個人の回答に対して、「当てはまる」(4点)、「まあ当てはまる」(3点)、「あまり当てはまらない」(2点)、「ほとんど当

図表7-1 保育園・幼稚園から保護者に対するサポート

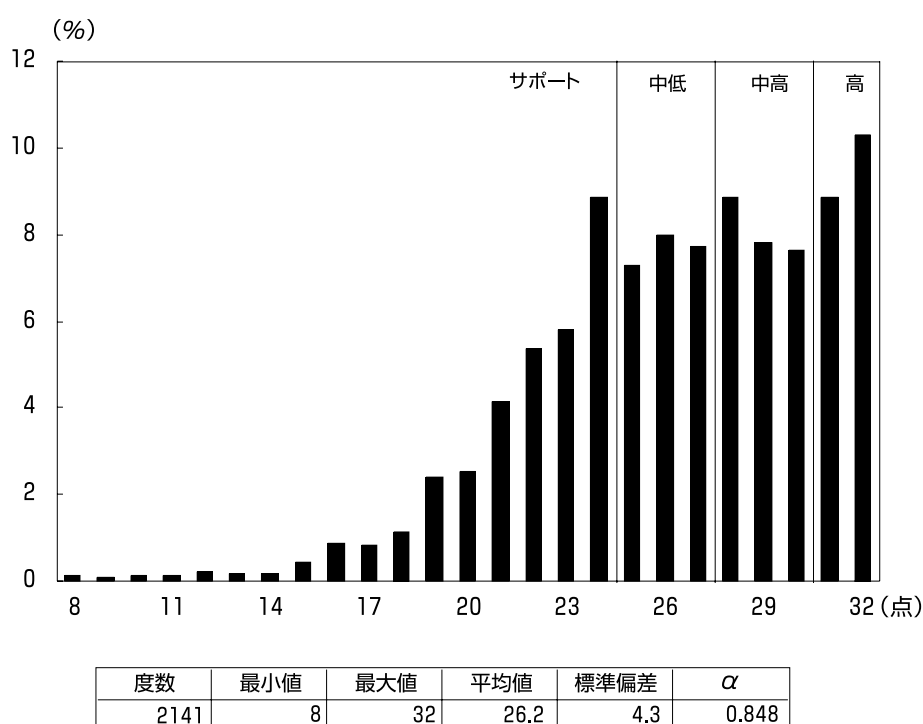
	当てはまる	まあ 当てはまる	あまり当て はまらない	ほとんど当て はまらない	わからない	無回答
1) 担任の先生は、あなたの子どもをよく理解してくれている	35.9	41.8	2.9	0.3	18.3	0.8
2) 担任の先生はあなたの話をよく聞いてくれる (コミュニケーションがよくとれている)	31.8	30.5	4.6	4.8	27.5	0.9
3) 子どもへの対応は丁寧で、子どもの話をよく 聞いてくれる	41.8	34.2	2.8	0.8	19.1	1.3
4) 子ども同士のトラブルを親に納得がいくように 説明してくれる	21.5	25.6	6.4	3.0	42.0	1.5
5) 登降園時に担任の先生と直接、子どもの様子に ついて情報交換する機会がある	30.4	19.3	6.7	20.6	21.9	1.1
6) 担任の先生と親と一緒に子どもを育てていると いう一体感がある	24.8	37.1	10.5	4.0	22.5	1.1
7) 担任の先生はあなたの家庭の状況をよく理解し てくれている	13.0	31.6	12.5	5.2	36.8	1.0
8) 担任の先生がいないときには、他の先生に引き 継ぎをしてくれているので不安はない	28.0	29.6	6.3	2.0	33.1	1.0

注) アンケート調査の一連の質問には、上記のほか、「子ども同士のトラブルの解決方法で、担任の先生の対応に不満を抱いたことがある」「子どもの育て方や対応で迷ったときには、担任の先生に相談する」という項目があるが、これらは保育園・幼稚園からのサポートとは異なるため、ここでは割愛した。

てはまらない」(1点)と配点し、8項目の得点を合計して算出した。「わからない」と回答した場合は欠損値とし、8項目中1項目でも欠損値があるサンプルは以下の分析から除外している。

サポートの合成尺度の度数分布と記述統計量が図表7-2である。合成尺度の得点分布は8点から32点で、平均値は26.2点である。なお、合成尺度に使用した8項目を因子分析(主因子法)すると、固有値1以上の因子は1つ抽出される(分析結果の表記は割愛)。また、この8項目についてのクロンバックの α は0.848である。一般に α が0.7以上であれば尺度の内的一貫性は確保されているとみなされるが、本尺度はその基準を満たしている。この合成尺度については、得点を4分位に分けて、「サポート高」群から「サポート低」群までの4グループに分けた指標も使用する。カッティング・ポイントは図表7-2のとおりである。

図表7-2 保育園・幼稚園から保護者に対するサポートの合成尺度の度数分布と記述統計量



(2) 保育園・幼稚園のサポートと保護者の育児不安

保育園・幼稚園から保護者に対するサポートと育児不安の関係を分析する。保育園・幼稚園からのサポートの程度別に、保護者の育児不安の平均値を示したものが図表7-3である(育児不安の変数の具体的内容は第5章を参照)。

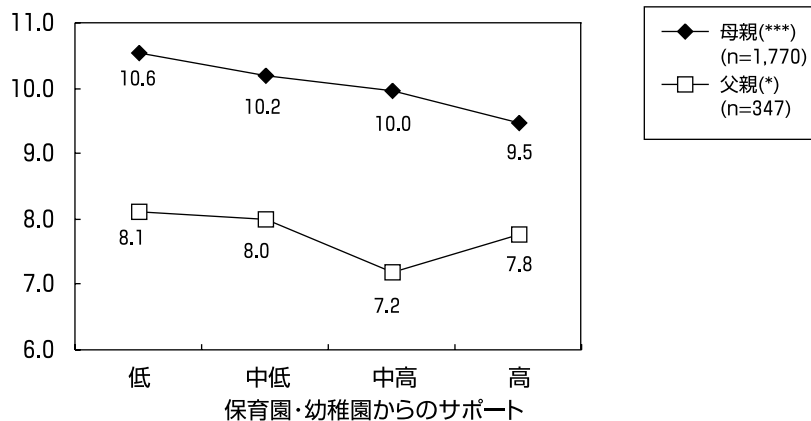
まず、父母別の集計結果をみると、母親の場合、保育園・幼稚園からのサポート度が高いほど、有意に育児不安が低くなっている(図表7-3ア)。父親の場合も、保育園・幼稚園からのサポート度が高いほど有意に育児不安が低くなるが、その傾向は母親ほど顕著ではない。

子どもの保育園・幼稚園の利用状況別にサンプルを分けてみると、母親では、保育園0-2歳/保育園3-6歳/幼稚園のいずれにおいても、保育園・幼稚園からのサポート度が高いほど有意に育児不安が低下している(図表7-3イ)。

図表7-3 保育園・幼稚園から保護者に対するサポート度別、育児不安の平均値

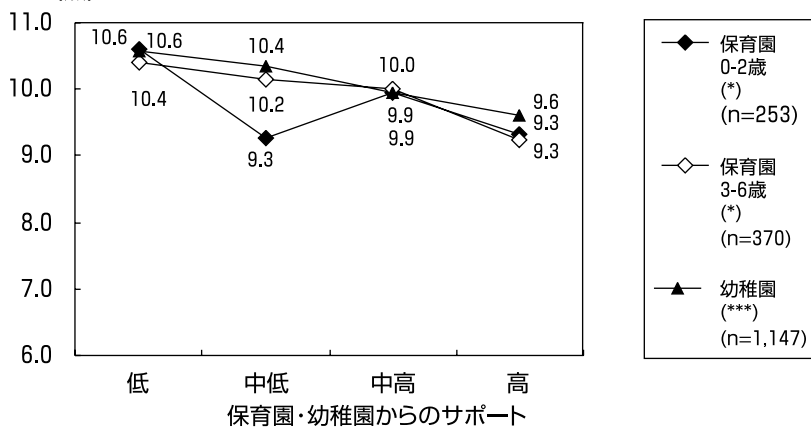
ア) 父母別

(点)



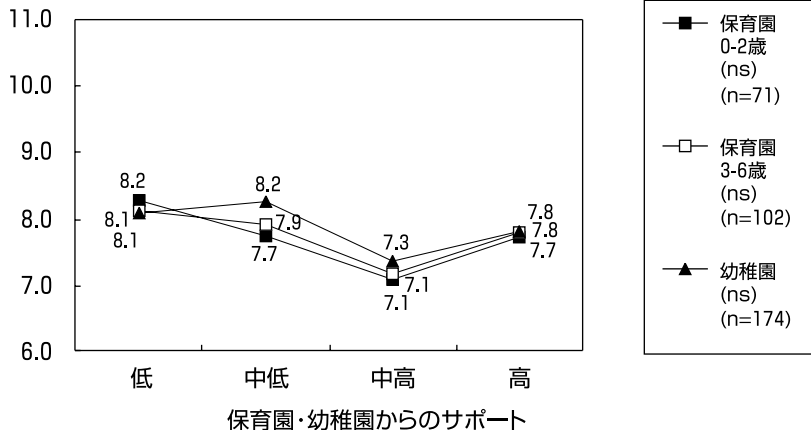
ウ) 保育園・幼稚園別(父親)

(点)



エ) 保育園・幼稚園別(母親)

(点)



注) 一元配置の分散分析により統計的有意差を検定
+p<.10 *p<.05 **p<.01 ***p<.001 ns=非有意

同様に父親を子どもの保育園・幼稚園の利用状況別に分けて分析すると、保育園・幼稚園から

のサポート度が高くても、育児不安は統計的に有意には低下していない（図表7-3ウ）。

(3) 保育園・幼稚園のサポートと保護者の子育ての悩み

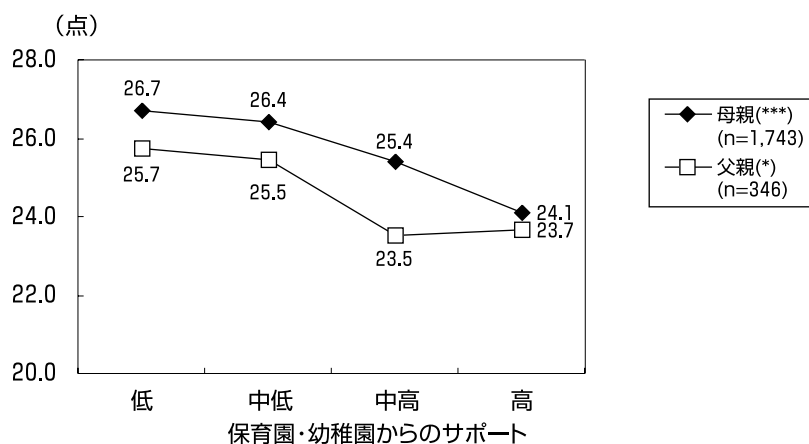
続いて、保育園・幼稚園からのサポートと子育ての悩みの関係をみたものが図表7-4である（子育ての悩みの変数の具体的内容は第5章を参照）。

父母別の集計結果をみると、父母とも、保育園・幼稚園からのサポート度が高いほど子育ての悩みが有意に少なくなるという関係がみられる（図表7-4ア）。

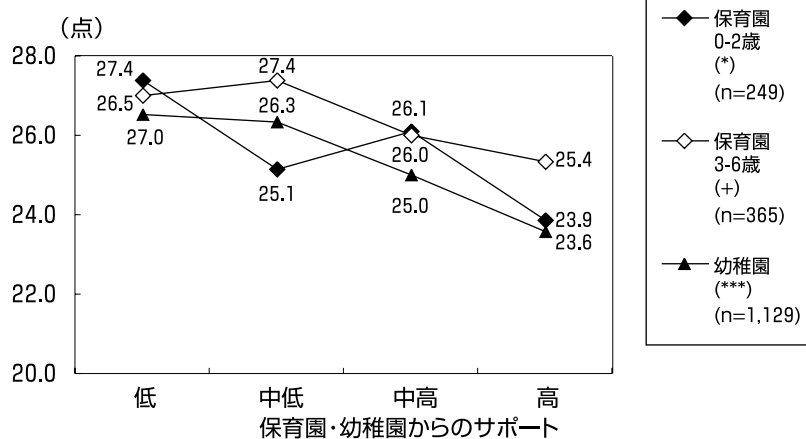
子どもの保育園・幼稚園の利用状況別にサンプルを分けてみると、母親では、保育園0-2歳/保育園3-6歳/幼稚園のいずれにおいても、保育園・幼稚園からのサポート度が高いほど有意に育児不安が低下している（図表7-4イ）。父親を子どもの保育園・幼稚園の利用状況別に分けて分析すると、保育園・幼稚園からのサポート度が高いと育児不安が低くなってはいるが、その関係は統計的には有意ではない（図表7-4ウ）。

図表7-4 保育園・幼稚園から保護者に対するサポート別、子育ての悩みの平均値

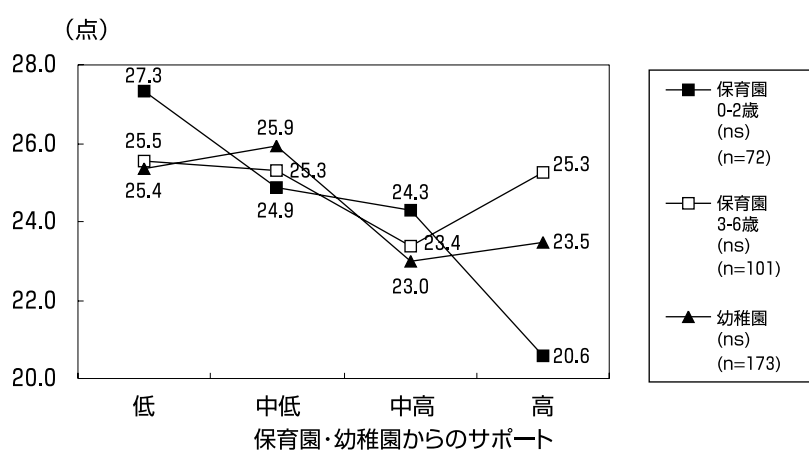
ア) 父母別



イ) 保育園・幼稚園別(母親)



ウ) 保育園・幼稚園別(父親)



注) 一元配置の分散分析により統計的有意差を検定
+p<.10 *p<.05 **p<.01 ***p<.001 ns=非有意

2. 育児不安・悩みと今後の出産意欲の関係

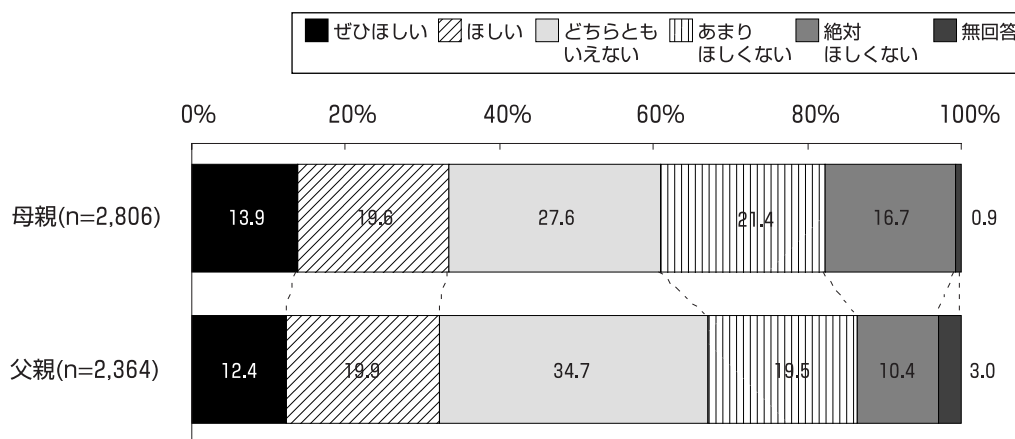
(1) 今後の出産意欲

続いて、育児不安および子育ての悩みと今後の出産意欲の関係を分析する。今後の出産意欲は、ふたり親よりもひとり親の方が不確実性が高いため、本節の分析対象からはひとり親世帯を除外している。

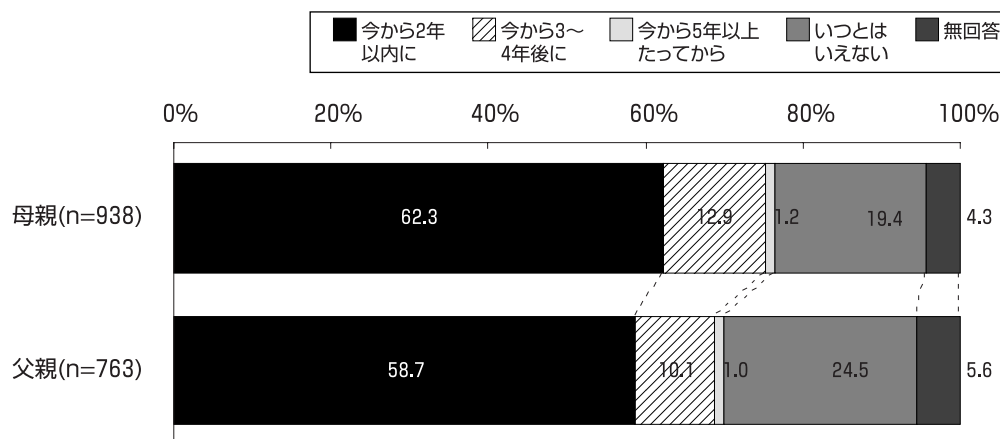
はじめに、今後の出産意欲の状況を示す。対象者に現在の子ども数以上に子どもがほしいかと尋ねた結果が図表7-5である。母親では、「ぜひほしい」と答えた割合が13.9%、「ほしい」が19.6%、「どちらともいえない」が27.6%、「あまりほしくない」が21.4%、「絶対ほしくない」が16.7%となっている。父親の回答結果は母親と類似しているが、母親よりも「どちらともいえない」が多く、「絶対ほしくない」が少ない傾向がある。

本調査では、このうち「ぜひほしい」または「ほしい」と回答した者を今後の追加出産意欲がある者として、彼らに次の子どもをもうける時期と出産する予定の子ども数を尋ねている。次の子どもをもうける時期としては、父母とも約6割が「2年以内」と回答している（図表7-6）。追

図表7-5 現在の子ども数以上に子どもがほしいか



図表7-6 次の子どもをいつ頃ほしいか（追加出産意欲がある人が対象）

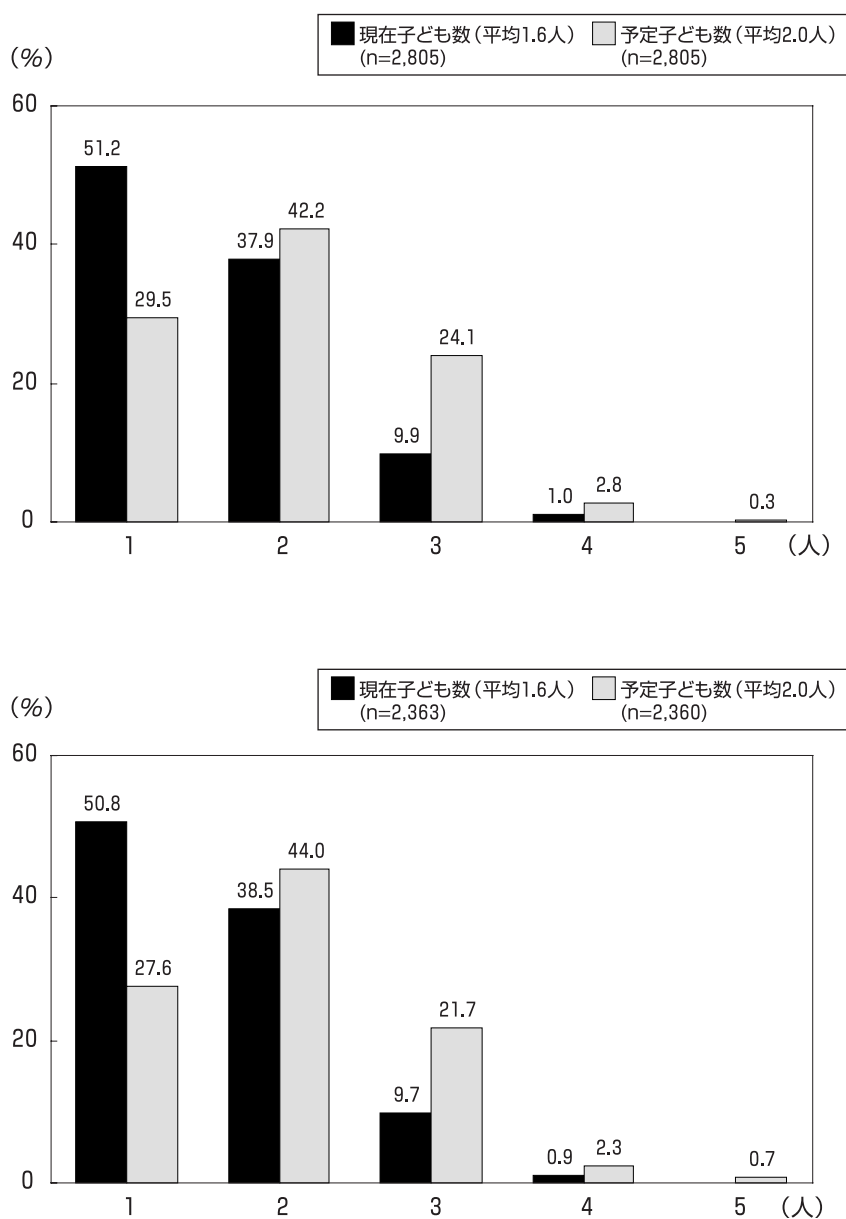


加出産意欲がある者では、比較的早い時期に、次の子どもをもうけたいと考えている者が多いといえる。

現在の子ども数と最終的にほしい予定の子ども数を示したものが図表7-8である。最終的にほしい予定の子ども数は、図表7-6で「どちらともいえない」「あまりほしくない」「絶対ほしくない」と答えた者は現在の子ども数であり、「ぜひほしい」または「ほしい」と回答した者は全部でほしい子ども数である。父母とも、現在の子ども数は1.6人で、予定子ども数は2.0人である。子ども数別にみても、現在は子どもが1人という者が多いものの、予定子ども数は「2人」が約4割で最も多い。

(2) 育児不安・悩みと追加出産意欲の関係

図表7-7 現在子ども数と予定子ども数



注) 予定子ども数は、現在の子ども数に今後産む予定の子ども数を足し合わせた数である。

①育児不安別にみた追加出産意欲

現在の子ども数別に、育児不安と追加で出産する予定の子ども数の関係をみたものが図表7-8である。

母親についてみると、現在の子ども数が1人の場合、育児不安「低」群では今後0.75人出産する意向があるが、育児不安が高くなるにしたがってその数は低下し、育児不安「高」群では0.52人と少なくなっている（図表7-8ア）。現在の子ども数が2人の母親では、統計的に有意ではないが、育児不安が高いほど、今後出産する予定の子ども数が少なくなるという関係がおおむねみられる。父親についてみると、現在の子ども数が1人の場合は、育児不安が高いほど、おおむね今後出産する予定の子ども数が少なくなるという関係がみられる。ただし、その関係は母親ほど顕著ではない。現在の子ども数が2人の父親についてみると、育児不安と今後出産する予定の子ども数の関係は不明瞭である。

保育園・幼稚園別にみると、母親の場合、保育園・幼稚園にかかわらず、現在の子ども数が1人の場合に、育児不安が高いほど今後出産する予定の子ども数が少なくなるという関係がみられる（図表7-8イ）。具体的には、保育園の場合、現在の子ども数が1人の母親では、育児不安「低」群では今後0.83人出産する意向があるが、育児不安「高」群ではそれが0.58人に過ぎない。幼稚園の場合、現在の子ども数が1人の母親では、育児不安「低」群では今後0.71人出産する意向があるが、育児不安「高」群ではそれが0.49人と少なくなっている。現在の子ども数が2人の場合は、統計的な有意差はないものの、保育園の育児不安「低」群では今後0.45人出産する意向があるが、育児不安「高」群ではそれが0.32人と少なくなっている。幼稚園においても、同様の傾向がみられる。

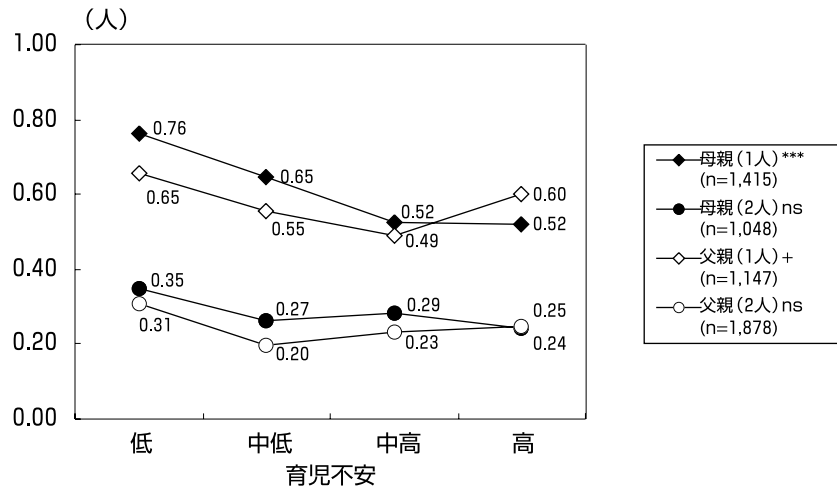
父親についてみると、保育園・幼稚園とも、育児不安が高まると今後出産する予定の子ども数が減少するという関係は、母親ほど明確にはみられない（図表7-8ウ）。幼稚園の場合、育児不安が高いほど今後出産する予定の子ども数が少なくなる傾向はみられるが、その減少幅は母親に比べて小さいものである。

②子育ての悩み別にみた追加出産意欲

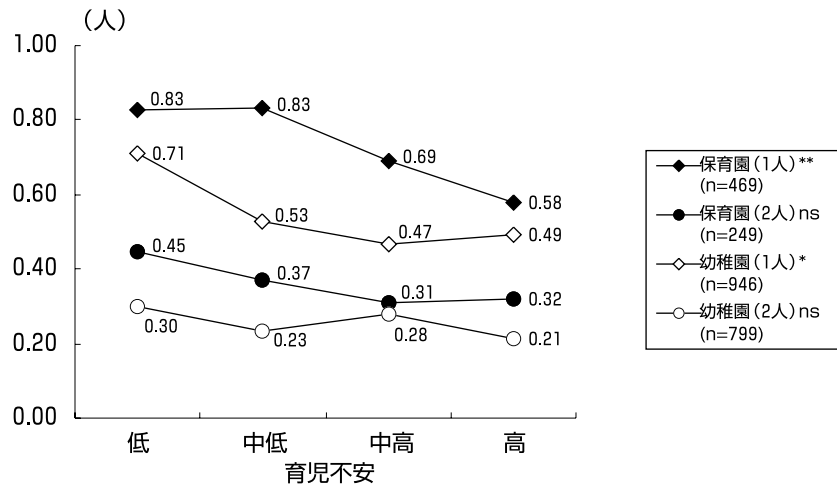
続いて、子育ての悩みと追加で出産する予定の子ども数の関係をみたものが図表7-9である。図表7-10ア～ウから、子育ての悩みの程度と追加で出産する予定の子ども数の間には、前者が増えれば後者が減るという明確な関係はみられない。

図表7-8 育児不安・子ども数別にみた追加で出産する予定の子ども数

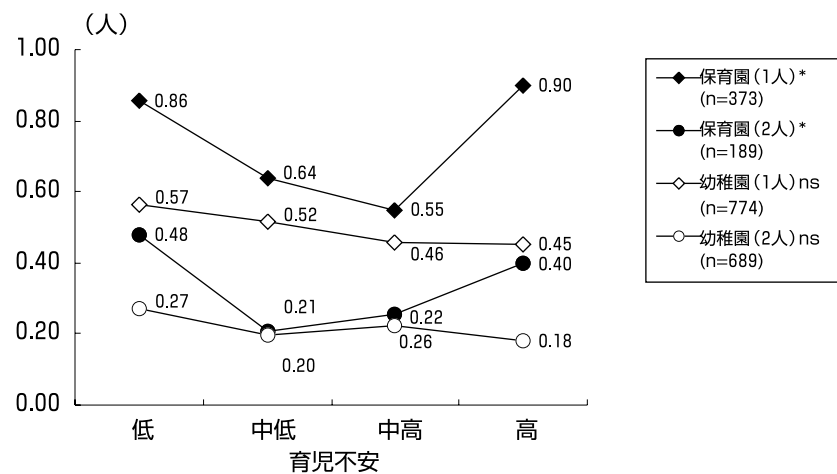
ア) 父母別



イ) 保育園・幼稚園別(母親)



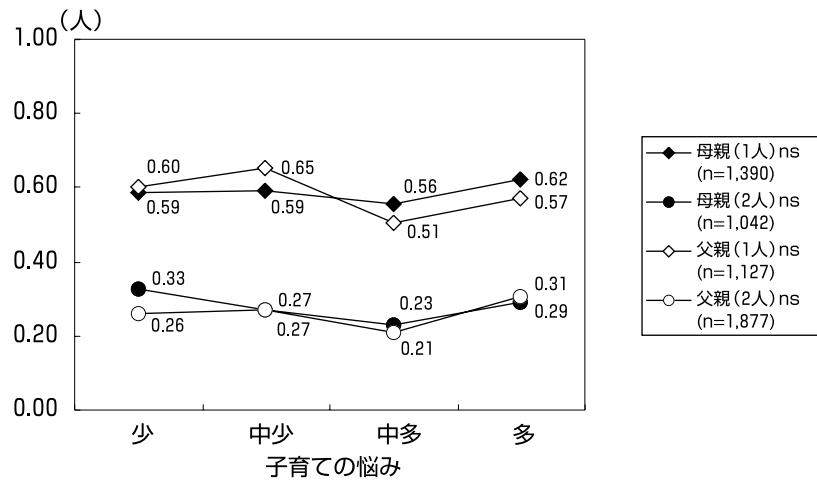
ウ) 保育園・幼稚園別(父親)



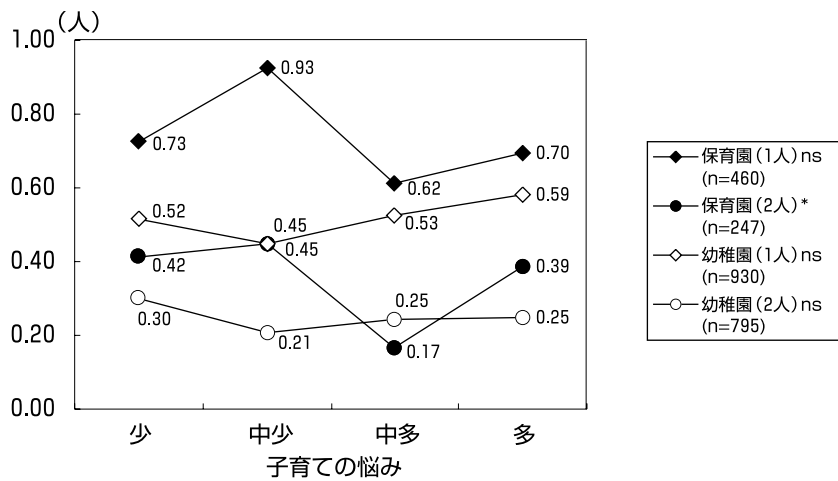
注) 子育ての悩みと追加出産意欲の有無の χ^2 検定によって統計的有意差を検定
+ $p<.10$ * $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$ ns=非有意

図表7-9 子育ての悩み・子ども数別にみた追加で出産する予定の子ども数

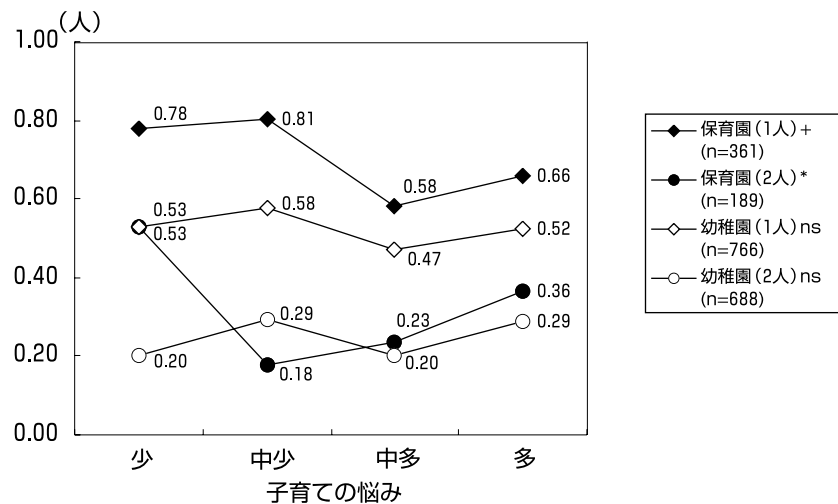
ア) 父母別



イ) 保育園・幼稚園別(母親)



ウ) 保育園・幼稚園別(父親)



注) 子育ての悩みと追加出産意欲の有無の χ^2 検定によって統計的有意差を検定
+ $p<.10$ * $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$ ns=非有意

3. まとめ

本章では、保育園・幼稚園からのサポート、保護者の育児不安や子育ての悩み、追加出産意欲の関係を分析した。本章の分析から、次の知見が見出された。

第一に、保育園・幼稚園から保護者に対するサポートは、保護者の育児不安や子育ての悩みを軽減させる。この効果は、父親よりも母親において顕著である。母親の場合、保育園3-6歳と幼稚園においては、サポートを多く感じているほど、育児不安が有意に低下する。ただし、保育園0-2歳では有意な効果はみられなかったことから、サポートが育児不安を低下させる効果は子どもが乳児期よりも幼児期において強くみられるものであると考えられる。また、母親では、保育園・幼稚園の利用状況にかかわらず、サポートが多いほど子育ての悩みは有意に低下する。一方、父親についてみると、保育園0-2歳の父親においてのみ、サポートが育児不安を低下させる傾向がみられた。同様に、保育園0-2歳の父親においては、サポートが多いほど子育ての悩みが有意に低下する。このため、父親の場合は、母親とは異なり、幼児期よりも乳児期の子どもをもつ者においてサポートが育児不安や子育ての悩みを軽減する効果があるといえる。ただし、父親においては、保育園・幼稚園から保護者に対するサポートが「わからない」と回答した者が多いため、ここで得られた結果はサポートの状況を回答した者における結果がである。

第二に、育児不安が高いことは追加出産意欲を低下させる強い影響があることが見出された。この効果は、子ども数が1人の母親において強くみられた。子ども数が2人の母親でも、育児不安が高い方が、追加出産意欲が低い傾向がみられた。一方、子育ての悩みについては、父母とも、追加出産意欲を低下させる有意な影響はみられなかった。本稿の分析の範囲からは、育児不安と子育ての悩みの影響の差が生じる正確な理由は不明である。しかしながら、育児不安は漠然とした不安感であるのに対して、子育ての悩みは個々具体的な悩みであることを考慮すると、追加出産意欲にマイナスの影響を与えるのは漠然とした不安感であるという可能性が考えられる。

以上の結果をもとに、保育園・幼稚園からのサポート、保護者の育児不安や子育ての悩み、追加出産意欲の関係を考えると、特に母親においては、保育園・幼稚園からのサポートが育児不安を軽減させ、引いては追加出産意欲の減退を防ぐ効果があることが示唆される。少子化対策という観点でいえば、保育園・幼稚園からのサポートは追加出産意欲の減退を防ぐことを通じて、出生率の低下を止める効果があることがうかがえる。